

＜別冊 資料編＞

データで見る丹波地域-----	1
地域ビジョンの評価検証-----	3
アンケートの結果-----	15
新地域ビジョン策定にかかる検討の状況-----	27
ビジョンを語る会の開催実績-----	32
丹波の森づくり 30 年を振り返る-----	34
丹波地域ビジョン委員のこれまでの活動-----	38
2050 年を描く未来ストーリー-----	42
丹波の森宣言・丹波の森構想-----	52
当初地域ビジョン「みんなで丹波の森」-----	54
改定地域ビジョン「みんなで丹波の森」-----	56

データで見る丹波地域

(1) 人口

丹波地域の人口

区 分	国勢調査 H27. 10		国勢調査 R2. 10		推計人口 R3. 10	
	人	世帯	人	世帯	人	世帯
兵 庫 県	5,534,800	2,315,200	5,465,002	2,402,484	5,432,560	2,413,953
丹波地域	106,150	38,131	101,082	38,638	99,744	38,702
丹波篠山市	41,490	15,578	39,611	15,605	39,070	15,635
丹波市	64,660	22,553	61,471	23,033	60,674	23,067

資料：総務省統計局「国勢調査報告」、兵庫県「推計人口」

令和2年の国勢調査結果による丹波地域の年齢区分別人口構成

区 分		平成 27 年 A	令和 2 年 (構成比%) B		差引増減 B - A	増減率 %	
丹波地域	0～14 歳	13,242	11,903	(11.9)	△ 1,339	△ 10.1	
	15～64 歳	58,257	52,662	(52.7)	△ 5,595	△ 9.6	
	65 歳以上	34,322	35,397	(35.4)	1,075	3.1	
内	丹波篠山市	0～14 歳	4,890	4,470	(11.5)	△ 420	△ 8.6
		15～64 歳	22,896	20,427	(52.7)	△ 2,469	△ 10.8
		65 歳以上	13,420	13,862	(35.7)	442	3.3
訳	丹波市	0～14 歳	8,352	7,433	(12.1)	△ 919	△ 11.0
		15～64 歳	35,361	32,235	(52.7)	△ 3,126	△ 8.8
		65 歳以上	20,902	21,535	(35.2)	633	3.0

資料：総務省統計局「国勢調査報告」

(2) 産業

丹波地域の総生産額の産業別構成比

(R3.6時点)

区 分		総生産額	第1次	第2次	第3次	輸入品に課される税・関税等
全 県	億円 (%)	212,106 (100.0)	1,044 (0.5)	59,037 (27.8)	150,820 (71.1)	1,205 (0.6)
	R1/H30 増加率	0.2	▲ 4.3	1.0	▲ 0.1	—
丹波地域	億円 (%)	4,328 (100.0)	71 (1.6)	1,818 (42.0)	2,415 (55.8)	24 (0.6)
	R1/H30 増加率	9.9	▲ 3.5	27.0	0.2	—
全県に対する割合		2.0%	6.8%	3.1%	1.6%	

※市町内総生産＝(第1次産業＋第2次産業＋第3次産業)＋輸入品に課される税・関税等

資料：企画県民部統計課「平成31・令和元年度市町内総生産(速報値)」

(3) 農業

丹波地域の農業の主要指標

区 分	農家戸数	農業従事者数	耕地面積	
			田	畑
全 県	67,124 戸	87,029 人	43,167 ha	2,948 ha
丹波地域	8,214 戸	11,847 人	6,335 ha	458 ha
全県に対する割合	12.2 %	13.6 %	14.7 %	15.5 %

資料：2020年度農林業センサス農林業経営体調査結果の概要（兵庫県分）

(4) 工業

技術力のある企業例

区 分	業 種	特 色 等
共栄樹脂(株)	プラスチックシート等製造	各種食品容器等に成型加工される樹脂シート製造が国内屈指の総合樹脂メーカー。ポリプロピレンシートの国内トップシェア。
(株)大地農園	プリザーブドフラワー、ドライフラワー製造	プリザーブドフラワー製造は世界の大手4社のうちの1社。プリザーブドフラワー等国内シェア約50%以上。
住友ゴム工業(株)	ゴルフボール製造	国内シェア25%以上。特許も多数保有。
明昌機工(株)	ナノテク機器等の受注生産	大阪大学や兵庫県立大学との共同開発により、県立粒子線医療センターの加速器系設計製作など、ナノテクの個別受注生産を展開。
平和発條(株)	伸縮両効き皿ばねユニット	地震時に建物の揺れを最小限に抑制する制震ダンパーの構造改良部品を開発、製造。

(5) 労働

年別地元就職率の推移（高校生）

区 分	30年春	31年春	令和2年春	令和3年春
地元就職/全就職者数	97人/186人 (52.2%)	117人/213人 (54.9%)	81人/184人 (44.0%)	126人/200人 (63.0%)

(6) 社会基盤

丹波地域の道路整備状況（県管理分）

(R3.4時点)

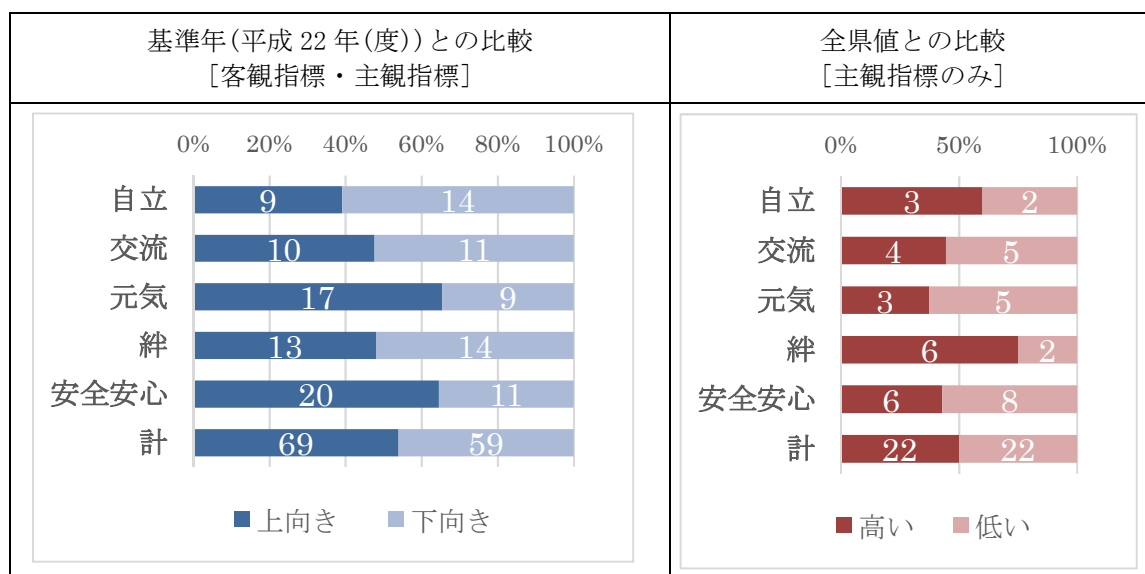
区 分	一般国道（県管理分）			県 道			合 計		
	実延長	改良率	舗装率	実延長	改良率	舗装率	実延長	改良率	舗装率
	m	%	%	m	%	%	m	%	%
全 県①	878,032	96.4	100.0	3,961,811	79.9	94.5	4,839,843	82.9	95.5
丹波地域② (②/①)	122,821 (14.0%)	94.4	100.0	401,462 (10.1%)	72.5	93.2	524,283 (10.8%)	77.6	94.8

地域ビジョンの評価

- 改定ビジョン（2011年度策定：目標年次：2020年）では、5つの将来像（『自立』、『交流』、『元気』、『絆』、『安全・安心』）を掲げています（改定ビジョンでは、当初ビジョンの将来像の基本的方向を継承していますが、内容・表現については見直しを行なっています）
- 策定後、5つの将来像の達成状況を把握するため、将来像に関連する指標（客観指標74項目、主観指標54項目等）を設定し、毎年度フォローアップに努めてきました。2011年(平成23年)度に改訂ビジョンを策定したことから、その前年である2010年(平成22年)度を指標の基準年（度）とし、最新年（度）の数値を比較することで評価をしています
- 新ビジョンの策定過程では、「丹波新地域ビジョン検討委員会」での議論のほか、「ビジョンを語る会」、「丹波地域夢会議」等の開催や「丹波地域の今とこれからのに関するアンケート」の実施などを通じて、将来像の実現状況について、丹波地域内外の方から多数ご意見を伺いました。こうして集めたデータや意見にもとづき、以下に5つの将来像の達成状況の検証結果をとりまとめています

最新年（令和3）度の指標の評価

- 全体では、128項目のうち69項目（54%）が基準年に比べて上向きの数値を示しているものの、コロナ禍の影響を大きく受け、イベント等の中止・規模縮小により昨年度より大幅に数値が低下した項目も見られました。各将来像で見ると、特に「自立」「交流」の指標においてその傾向が顕著でした
- 全県値との比較が可能な44項目中では、22項目（50%）が全県より高い数値を示しています。昨年（令和2）度が26項目（64%）であったことを踏まえると、全体としては低調な傾向となった一方、将来像「絆」の指標においては県下トップレベルの値を示す項目が多く見られ、コロナ禍においても、丹波地域の「絆」の強さが示されました



将来像 1：みんなで創る“自立のたんば”

- －地域の魅力発掘と情報発信、地域を担う人材の育成
- 地域づくりへの住民参加の推進、地域で活動する団体の連携推進

【指標の評価：基準年と最新年の比較】

◇基準年より大きく向上している項目

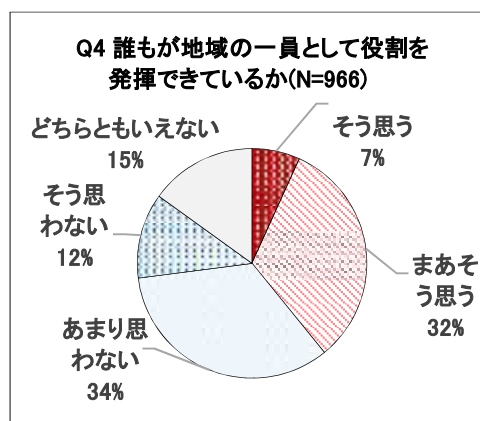
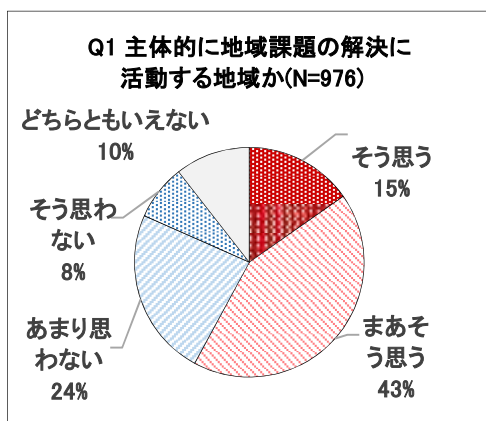
- ・国・県指重要文化財の数 [146件 → 163件]
- ・NPO法人数 [43団体 → 68団体]
- ・「ひょうごアドプト」の団体数 [18団体 → 28団体]

◇基準年より大きく低下している項目

- ・地域の自治会や地域で活動している団体に活気があると感じる [43.5% → 23.5%]
- ・地域づくりの担い手が育っていると感じる [32.8% → 20.5%]

【検証結果】

- ・住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人は増加傾向にあります (H22:47.4%→R3:64.7%)。地域活動への参加率 (R3:43.8%) が県下 (平均:32.9%) で最も高く、NPO等 (H22:43団体→R3:68団体) による住民の自主的な地域活動が活発に行われ、地域住民が地域課題の解決に主体的に活動する地域だと思える人が半数以上を占めています (アンケート Q1)
- ・しかし、人口減少・高齢化とともに、ボランティア登録者数 (H22:7,147人→R2:4,122人) などは減少傾向にあり、今後の地域づくりの担い手不足を懸念する声もあがっています。また、自治会等の活動が縮小するなど、地域社会の活力低下が懸念されています (自治会等に活気があると感じている人の割合: H25:43.5%→R3:23.5%)
- ・一方で、誰もが地域の一員として役割を發揮できているとみる人は多くありません (アンケート Q4)。地域づくりの潜在的な担い手はまだいると考えてよいかもしれません



将来像2：都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

－森・川・里の豊かな自然の保全と活用、環境に優しい地域づくりの推進、環境学習フィールドづくり、美しい景観づくりの推進、都市との多彩な交流の推進、丹波の田舎暮らし情報の発信

【指標の評価：基準年と最新年の比較】

◇基準年より大きく向上している項目

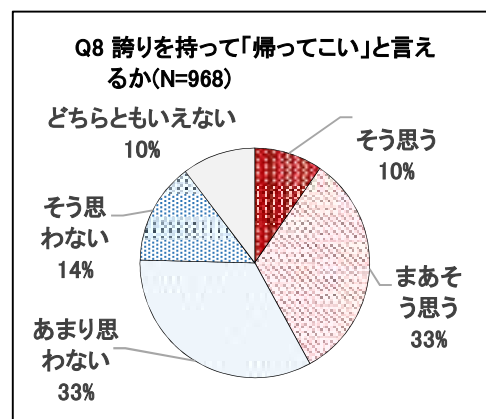
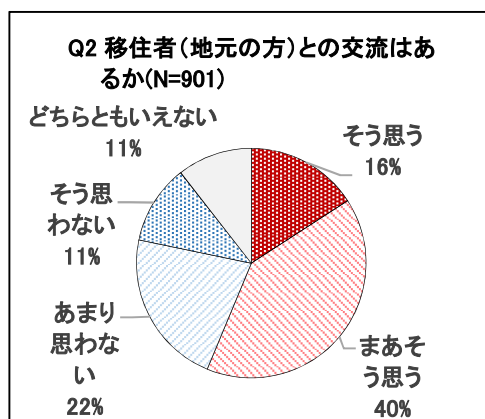
- ・恐竜化石関連施設への来訪者数 [48,767人 → 115,360人]
- ・田舎暮らし相談者数 [327人 → 1,106人]
- ・田舎暮らし体験施設の利用者数 [2人 → 28人]
- ・山林や川などの自然環境を守る取組に参加している [24.4% → 36.3%] (全県値 32.2%)

◇基準年より大きく低下している項目

- ・太陽光など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加している、または参加したいと思う人 [35.8% → 21.6%] (全県値 24.8%)
- ・地域の自然環境は守られていると思う [65.3% → 55.9%] (全県値 47.5%)
- ・自然の生き物とふれあう機会があると思う [58.0% → 44.4%] (全県値 37.8%)

【検証結果】

- ・丹波の豊かな自然を守りたいという意識は徐々に広がりを見せ、**自然環境を守るための取り組みに参加している人も増えていきます** (H25:58%→R3:36.3%)
- ・丹波並木道中央公園などの県立公園や恐竜化石関連施設 (H22:48,767人→R2:115,360人) への来客数が増えるなど、**交流人口は増加しつつあります**
- ・コロナ禍以降、自然とふれあえるたんば暮らしへの関心は一層高まり、恐竜化石等の地域資源を活かしたまちづくりが進むとともに、相談件数は急増し、**移住者数** (R2:220人) も増加しています
- ・**移住者と地域の方の交流** (アンケート Q2) は進んでいますが、UJI ターンを含む移住者の受け入れ環境には改善の余地があるとの指摘があります。**誇りを持って「帰ってこい」といえる地域だ**と思う人はまだ少数にとどまっています (アンケート Q8)



将来像3：やりがいを実感できる“元気なたんば”

－地域の産業をリードする農林業の振興、商店街の活性化・ものづくり産業の振興、丹波の魅力を活かしたツーリズムの推進、地域の資源を活かした「しごと」の創出、地域づくり活動・文化活動の推進、若者の就労促進

【指標の評価：基準年と最新年の比較】

◇基準年より大きく向上している項目

- ・栗新植面積 [4.5ha → 30.0ha]
- ・新規就農者数 [26人 → 61人]
- ・観光などの訪問客が増えていると思う [21.8% → 33.8%] (全県値 14.9%)
- ・製造品出荷額等 [4,373億円 → 5,364億円]
- ・自分の仕事にやりがいを感じる [57.7% → 70.0%] (全県値 63.4%)

◇基準年より大きく低下している項目

- ・農林業（家庭菜園や里山体験などを含む）に魅力を感じる [56.2% → 42.7%]
- ・人に紹介したい観光資源があると思う人の割合 [65.1% → 55.3%]
- ・商売、事業を新たに始めやすいと思う [12.8% → 8.8%] (全県値 10.4%)

【検証結果】

- ・この10年間で作付面積は減少し、耕作放棄地は増加していますが、**農林産業産出額は増加**しています。GDPに占めるシェアは低いですが、**農林業は丹波地域の活気に結び付く産業**と認識されています（アンケートQ6）。新規就農者数も増加しています（H22:26人→R3:61人）
- ・**製造品出荷額、商業年間販売額**とも堅調に推移しています
- ・観光面では、**入込客数、消費額**とも伸びています。地域の人にも訪問客の増加を実感し、**宿泊業、飲食業が地域に活気をもたらし**ていると感じています
- ・「しごと」の面では、**自分の仕事にやりがいを感じる人が全県と比較しても高い**反面（R3:70%>全県平均 63.4%）、**就職・転職・起業しやすい環境**が整っているとみる人は少数（R3:7.4%）にとどまっています
- ・**住んでいるまちや地元企業に活気がある**と思う人は県下平均を下回っています（R3:21.6%<全県平均 26.6%）

表 主要経済指標の変化

項目	基準値※1	直近値	変化
域内総生産	2011年 338,378 百万円	2019年 432,836 百万円	27.9% ↑
農林産業産出額	2010年 12,590 百万円	2018年 13,537 百万円	7.5% ↑
製造品出荷額等※2	2009年 437,329 百万円	2019年 546,399 百万円	24.9% ↑
商業年間販売額	2006年 162,204 百万円	2014年 172,665 百万円	6.4% ↑
観光入込客数	2010年 4,417 千人	2019年 5,072 千人	14.8% ↑
観光消費額	2010年 329 億円	2019年 424 億円	28.9% ↑

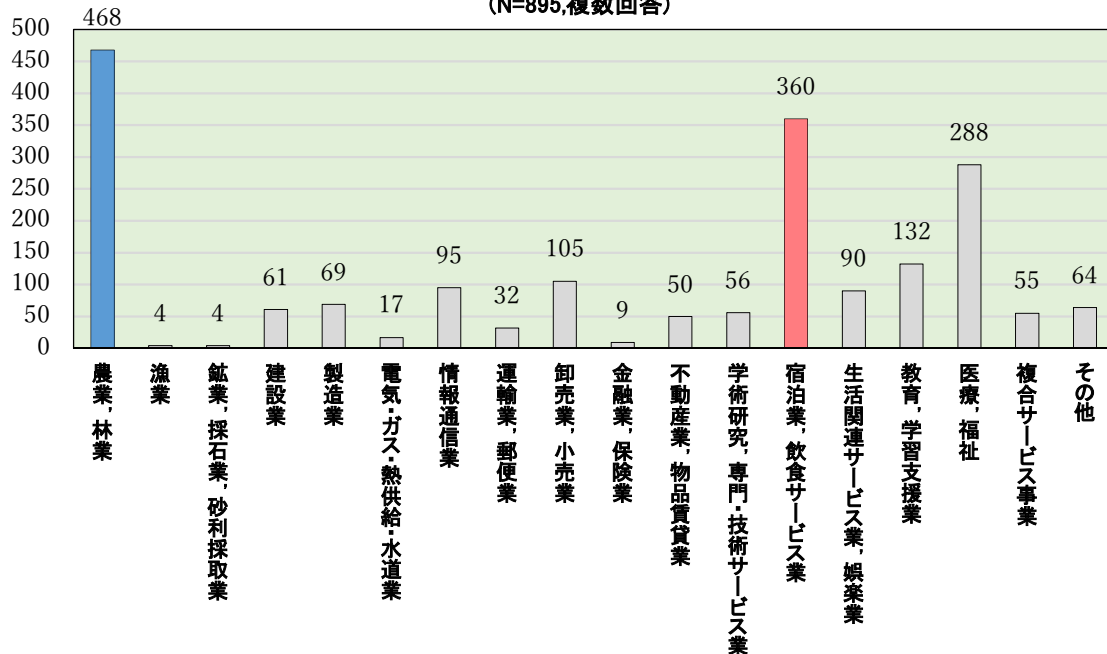
※1 改定ビジョン策定年(2011年)の直近値。年(年度)は調査年(年度)ではなく実績年(年度)

※2 従業者4人以上の事業所

(出典：市町民経済計算、農林水産業センサス、工業統計、商業統計、観光動態調査)

(回答数)

Q6 丹波地域の活気に結び付くと感じる産業
(N=895,複数回答)



将来像4：多世代が支え合う“絆のたんば”

ー地域コミュニティの再生、地域ぐるみでの子育て推進、高齢者が安心して暮らせる地域づくり、高齢者が活躍できる地域づくり

【指標の評価：基準年と最新年の比較】

◇基準年より大きく向上している項目

・ファミリーサポートセンター会員数 [485人 → 566人]

・放課後児童クラブ数 [25箇所 → 33箇所]

・心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う

[39.3% → 44.9%] (全県値 35.4%)

・異なる世代の人とつきあいがある [55.7% → 68.4%] (全県値 49.3%)

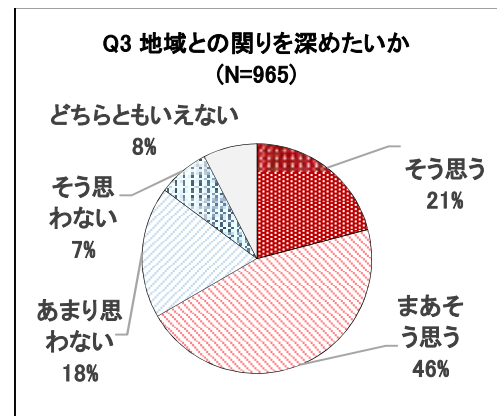
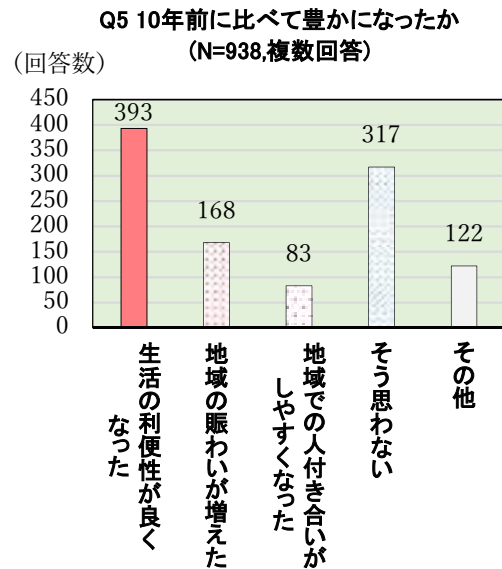
・これからも住み続けたいと思う [61.0% → 76.5%] (全県値 75.9%)

◇基準年より大きく低下している項目

- ・小規模集落数 [29箇所 → 107箇所]
- ・子育てがしやすいと思う [52.7% → 47.9%] (全県値 58.8%)
- ・老人クラブ数 [273クラブ → 132クラブ]
- ・高齢者の知恵や経験が積極的に活用されていると思う [31.4% → 18.1%]

【検証結果】

- ・住んでいる地域で「頼りになる知り合いが近所にいる」(R3:71.1%>県下平均 62.4%)、「異なる世代の人との付き合いがある」(R3:68.4%>49.3%)と回答する人の割合が県下でも高く、地域内のつながり、信頼が強い地域であるといえます
- ・一方、そのつながりが地域での子育てのしやすさにつながっているかという点、必ずしもそうとはいえないのが現状です(子育てしやすいと思う人の割合-R3:47.9%<県下平均 58.8%)
- ・小規模集落(高齢化率 40%以上かつ 50世帯以下の集落)が増加する中、高齢者の暮らしやすさも、都市部に比べあまり高く評価されていません(高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合-R3:43.7%<県下平均 54.2%)。高齢者の知恵や経験が積極的に活用されていると感じる人の割合もあまり高くありません



将来像5：ともに暮らす“安全安心なたんば”

－災害に強く、犯罪のない地域づくりの推進、誰もが暮らしやすいユニバーサル社会の実現、障害のある人も外国人も共に暮らす地域社会の実現、医療や健康、食の安全が確保された安心な地域の実現、

【指標の評価：基準年と最新年の比較】

◇基準年より大きく向上している項目

- ・交通事故死傷者数 [656人 → 257人]
- ・街頭犯罪・侵入犯罪認知件数 [598件 → 372件]

- ・人口 10 万人あたりの医師数 [165.7 人 → 206.1 人]
- ・かかりつけの医者がある [69.1% → 75.3%] (全県値 69.7%)
- ・心身ともに健康であると感じる [58.2% → 63.4%] (全県値 67.1%)
- ・災害に備えた話し合いや訓練に参加している
[34.0% → 37.8%] (全県値 21.5%)
- ・地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う
[31.7% → 39.2%] (全県値 34.4%)
- ・若者が希望を持てる社会だと思う [4.9% → 10.5%] (全県値 11.5%)

◇基準年より大きく低下している項目

- ・医療機関の適切な受診を心がけている [88.2% → 80.5%]

【検証結果】

- ・**犯罪認知件数** (H22 : 598 件→R2 : 372 件) や**交通事故死傷者数** (H22 : 656 人→R2 : 257 人) は減少傾向にあります。「**治安が良く安心して暮らせる**と思う人の割合」(R3 : 85%) は県下平均 (79.6%) を上回っています
- ・防災面では、防災訓練や防災リーダー養成講座への参加者や住宅再建共済制度への加入が増えるなど、**防災意識**が高まってきていることがうかがえます
- ・**だれもが暮らしやすいユニバーサル社会**の実現という点では、**移動・交通の利便性**への評価が低い (公共交通は便利だと思う人の割合-R3 : 12.2%) こともあり、達成されたとみる人は少数にとどまっています (R3 : 25.8%)
- ・県立丹波医療センターの開設、医師 (かかりつけ医) を持つ人の増加などにより、**健康・地域医療**への安心感は高まっています。健康と感じる人も増えていきます (H22 : 58.2%→R3 : 63.4%)

■将来像ごとの客観指標・主観指標 客観指標数74・主観指標数54 合計128

(1) 自立(将来像1) 客観指標数15・主観指標数8 合計23

基本項目	指 標		【基準年】 平成22年(度)	平成23年 (度)	平成24年 (度)	平成25年 (度)	平成26年 (度)	平成27年 (度)	平成28年 (度)	平成29年 (度)	平成30年 (度)	令和元年 (度)	令和2年 (度)	令和3年 (度) ※1	基準年と最 新年の比較 ※2	全県値との比較 (R3 主観指標) 全県値	評価 ※3	出 典	
	名 称 等	指標の内容																	
①魅力あふれる「地域資源」	客観	国・県指定重要文化財の数	22年度	146件	146件	147件	147件	154件	156件	157件	162件	162件	163件		↗			県教委調査	
		恐竜化石関連施設への来訪者数	22年度	48,767人	59,571人	59,608人	74,679人	76,950人	97,782人	104,275人	114,303人	113,296人	118,935人	115,360人		↗			県調査
	主観	住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合	22年度	47.4%	57.8%	46.8%	62.7%	66.2%	67.1%	63.0%	68.9%	68.8%	69.2%	68.2%	64.7%	↗	66.8%	▼	県民意識調査
		住んでいる地域には、自慢したい「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合	22年度	51.7%	63.1%	49.3%	50.8%	53.9%	51.3%	50.9%	55.4%	53.4%	52.6%	57.1%	45.6%	↘	54.3%	▼	県民意識調査
		地域資源を生かしたビジネスや地域づくりが進んでいると思う人の割合		—	—	—	20.3%	17.0%	16.3%	20.2%	20.4%	20.3%	18.8%	18.8%	15.0%	↘			県民意識調査(丹波)
②地域を担う「人材」	客観	社協ボランティアセンターへの登録・活動把握者数	22年度	7,147人	7,197人	8,123人	—	3,149人	6,226人	6,211人	6,226人	5,229人	4,503人	4,122人		↘			県内社協活動の現状
		丹波の森大学受講者数	22年度	86人	81人	76人	50人	50人	46人	53人	51人	49人	43人	33人		↘			丹波の森公園調査
		関西学院大学柏原スタジオにおけるフィールドワーク参加者	22年度	248人	278人	323人	233人	259人	288人	272人	274人	176人	244人	160人		↘			県調査
		地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」参加事業所数	22年度	445社	488社	448社	473社	438社	438社	464社	407社	447社	385社	(*)8人		↘			県教委調査
		地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」参加ボランティア数	22年度	637人	769人	700人	872人	757人	618人	567人	595人	524人	534人	(*)85人		↘			県教委調査
	主観	地域に活かす「トライやる」アクションの参加生徒数	22年度	809人	1,192人	1,184人	1,545人	1,380人	1,306人	988人	1,390人	1,095人	904人	(*)665人		↘			県教委調査
		住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している人の割合		—	—	—	43.5%	46.0%	45.4%	46.1%	47.8%	49.0%	49.4%	50.0%	43.8%	↗	32.9%	😊	県民意識調査
		ボランティアなどで社会のためになる活動をしている、又はしてみたい人の割合	22年度	39.5%	45.2%	42.3%	32.7%	47.4%	44.7%	40.1%	45.1%	42.3%	40.7%	42.2%	35.2%	↘	32.6%	😊	県民意識調査
		住んでいる地域のことに関心がある人の割合		—	—	—	67.3%	79.6%	76.7%	72.2%	74.7%	74.4%	68.6%	71.8%	71.8%	↗	71.2%	😊	県民意識調査
		地域づくりの担い手が育っていると感じる人の割合		—	—	—	32.8%	27.8%	23.9%	23.5%	23.6%	25.1%	18.3%	21.5%	20.5%	↘			県民意識調査(丹波)
③地域で活動する「団体」	客観	NPO法人数	22年度	43団体	45団体	51団体	55団体	58団体	60団体	64団体	65団体	68団体	67団体	68団体		↗			県調査
		社会福祉協議会登録ボランティア団体数	22年度	373団体	306団体	335団体	—	298団体	242団体	280団体	242団体	246団体	232団体	212団体		↘			県内社協活動の現状
		学生等による地域貢献活動推進事業の実施団体数		—	—	4団体	4団体	4団体	8団体	8団体	8団体	10団体	7団体	8団体		↗			県調査
		県民まちなみ緑化事業の実施団体数	22年度	5団体	4団体	6団体	14団体	11団体	10団体	12団体	11団体	11団体	9団体	10団体		↗			県調査
		緑化資材提供事業等の実施団体数	22年度	67団体	75団体	80団体	60団体	53団体	48団体	55団体	55団体	47団体	61団体	56団体		↘			県調査
		「ひょうごアドプト」の団体数	22年度	18団体	21団体	24団体	25団体	25団体	30団体	29団体	34団体	31団体	28団体	28団体		↗			県調査
		丹波の森公園生活創造グループ登録数	22年度	205団体	232団体	255団体	272団体	284団体	120団体	144団体	158団体	171団体	191団体	199団体		↘			丹波の森公園調査
	主観	地域の自治会や地域で活動している団体に活気があると感じる人の割合		—	—	—	43.5%	41.3%	37.8%	41.3%	32.4%	39.2%	37.1%	30.1%	23.5%	↘			県民意識調査(丹波)

※1: 主観指標(令和3年)について、県下地域別で最高値のものは網掛、最低値のものは白抜きで表示

※2: 基準年と最新年の比較は、平成22年度(統計結果が無い場合はその直前年度)と最新年度を比較し、向上を「↗」、低下を「↘」で表示。ただし、1%未満の変動は「→」で表示。

※3: 全県値との比較は丹波地域の値が全県値より上位のものは「😊」、下位のものは「▼」で表示

*印の欄については、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業規模の縮小による大幅な数値の減少や、事業の中止があった。

(2) 交流 (将来像2)

客観指標数10・主観指標数11 合計21

基本項目	指 標		【基準年】 平成22年(度)	平成23年 (度)	平成24年 (度)	平成25年 (度)	平成26年 (度)	平成27年 (度)	平成28年 (度)	平成29年 (度)	平成30年 (度)	令和元年 (度)	令和2年 (度)	令和3年 (度) ※1	基準年と最新年 の比較 ※2	全県値との比較 (R3 主観指標)		出 典	
	名 称 等	指標の内容														全県値	評価 ※3		
① 特色豊かな「自然・環境」	客観	二酸化窒素（NO ₂ ）濃度（日平均値の年間98％値）	窒素酸化物（大気汚染物質）の一種である二酸化窒素の濃度（1年間のうち濃度が高かった日に着目）	22年度 0.011ppm	0.010ppm	0.010ppm	0.011ppm	0.010ppm	0.010ppm	0.009ppm	0.010ppm	0.010ppm	0.009ppm	0.008ppm		↗			県調査
		浮遊粒子状物質濃度（日平均値の2％除外値）（SPM）	物の燃焼等に伴い発生する煤塵等の粉砕や自動車の走行に伴って飛散する粉塵など大気中に浮遊する粒径10μm以下の粒子状物質の濃度（1年間のうち濃度が高かった日に着目）	22年度 0.046mg/m ³	0.041mg/m ³	0.051mg/m ³	0.051mg/m ³	0.052mg/m ³	0.043mg/m ³	0.045mg/m ³	0.044mg/m ³	0.054mg/m ³	0.043mg/m ³	0.045mg/m ³		↗			県調査
		河川BOD（生物化学的酸素要求量）の75％値	河川での有機物による水質汚濁の指標の年間測定結果が環境基準に適合しているどうか評価するもの	22年度 0.9mg/L	1.8mg/L	1.2mg/L	0.7mg/L	0.6mg/L	0.5mg/L	<0.5mg/L	0.6mg/L	<0.5mg/L	0.5mg/L	0.7mg/L		↗			県調査
		生活排水処理率	下水道や農業集落排水・コミュニティプラント・浄化槽などによる生活排水の処理率	22年度 98.9%	98.9%	99.2%	99.2%	99.2%	99.3%	99.3%	99.3%	99.4%	99.5%	99.5%		↗			県調査
	主観	ごみの分別やリサイクルに協力している人の割合		22年度 92.6%	95.4%	95.1%	94.5%	91.9%	95.4%	93.5%	91.7%	90.7%	91.3%	93.5%	88.8%	↘	91.7%	▼	県民意識調査
		日頃から節電に取り組んでいる人の割合		22年度 83.9%	88.1%	85.4%	84.4%	83.0%	82.0%	81.3%	80.3%	78.6%	76.1%	81.8%	76.6%	↘	73.8%	☺	県民意識調査
		製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでる人の割合		22年度 62.6%	65.2%	57.9%	65.3%	65.1%	64.6%	60.7%	59.6%	60.3%	53.9%	58.3%	50.7%	↘	53.8%	▼	県民意識調査
		住んでいる市・町の自然環境は守られていると思う人の割合		22年度 65.3%	74.2%	70.7%	67.7%	54.1%	52.1%	48.7%	57.3%	56.2%	50.4%	57.1%	55.9%	↘	47.5%	☺	県民意識調査
		住んでいる地域のまち並みはきれいだと思う人の割合		—	—	—	55.3%	60.8%	51.9%	54.9%	60.1%	65.9%	61.6%	62.6%	58.7%	↗	66.0%	▼	県民意識調査
		山林や川、海などの自然環境を守るための取り組みに参加している人の割合		—	—	—	24.4%	31.8%	27.4%	35.7%	42.0%	35.2%	37.4%	39.8%	36.3%	↗	32.2%	☺	県民意識調査
太陽光など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加している、または参加したいと思う人の割合		22年度 35.8%	43.1%	35.0%	61.4%	35.7%	27.4%	26.8%	22.8%	18.6%	21.4%	25.6%	21.6%	↘	24.8%	▼	県民意識調査		
② 地域資源を活かした「学び・体験」	客観	環境学習の参加者数	恐竜・ほ乳類化石環境学習プログラムと丹波地域の森・川を活用した環境学習プログラムに参加した人の数	22年度 1,293人	1,779人	1,952人	2,394人	1,813人	1,539人	1,919人	1,675人	1,748人	1,752人	(*)233人		↘			県調査
		恐竜化石関連施設への来訪者数	恐竜化石発掘現場・丹波竜化石工房ちーたんの館・元氣村かみくげ・丹波並木道中央公園・太古のいきもの館への来訪者数	22年度 48,767人	59,571人	59,608人	74,679人	76,950人	97,782人	104,275人	114,303人	113,296人	118,935人	115,360人		↗			県調査
	主観	住んでいる市・町では、自然の生き物（動物・植物）とふれあう機会があると思う人の割合		—	—	—	58.0%	45.3%	49.6%	40.1%	46.5%	45.2%	40.6%	49.4%	↘	37.8%	☺	県民意識調査	
③ 都会に近い田舎を活かした「交流」	客観	楽農生活交流人口（交流施設利用者数）	ひょうご農林水産ビジョンに位置づけられている交流施設の利用者数	22年度 1,733千人	1,675千人	1,846千人	1,804千人	1,082千人	1,766千人	1,749千人	1,780千人	1,760千人	1,726千人	1,429千人		↘			県調査
		企業の森・里づくりにおける集落と企業の協定数	里山での間伐・枝打ち、交流会等を連携して行うため、集落と都市部の企業等が締結した協定の数	22年度 5地区	6地区	6地区	5地区	5地区	4地区	3地区	3地区	4地区	3地区	3地区		↘			県調査
		田舎暮らし相談者数	丹波市及び丹波篠山市で実施している田舎暮らし案内に係る相談者数	—	—	—	327人	373人	439人	558人	559人	751人	699件	1,106件		↗			県等調査
		田舎暮らし体験施設の利用者数	空き民家活用による田舎暮らし推進モデル事業で整備した田舎暮らし体験施設の利用者数	—	—	2人	51人	52人	47人	33人	56人	29人	23人	28人		↗			県調査
	主観	住んでいる地域は、県内のどこへでも便利に移動できると思う人の割合		22年度 30.2%	29.7%	26.2%	35.2%	38.8%	30.9%	31.0%	34.5%	36.7%	39.0%	36.3%	29.7%	↘	62.5%	▼	県民意識調査
		Iターン者など、丹波地域以外の人を受け入れやすい環境だと感じる人の割合		—	—	—	33.0%	34.1%	36.0%	42.3%	33.8%	41.0%	36.2%	30.1%	34.1%	↗			県民意識調査(丹波)
丹波地域の魅力が地域の内外にうまく情報発信されていると思う人の割合		—	—	—	27.4%	30.0%	29.3%	26.8%	23.6%	24.7%	20.1%	21.1%	19.8%	↘				県民意識調査(丹波)	

※1：主観指標（令和3年）について、県下地域別で最高値のものは網掛、最低値のものは白抜きで表示

※2：基準年と最新年の比較は、平成22年度（統計結果が無い場合はその直前年度）と最新年度を比較し、向上を「↗」、低下を「↘」で表示。ただし、1%未満の変動は「→」で表示。

※3：全県値との比較は丹波地域の値が全県値より上位のものは「☺」、下位のものは「▼」で表示

*印の欄については、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業規模の縮小による大幅な数値の減少や、事業の中止があった。

(3) 元気 (将来像3)

客観指標数16・主観指標数10 合計26

基本項目	指 標		【基準年】		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	基準年と最新年の比較 ※2	全県値との比較 (R3 主観指標)		出 典	
	名 称 等	指標の内容	平成22年(度)		(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	※1		全県値	評価 ※3		
① 地域をリードする「農林業」	客観	丹波黒大豆作付面積	丹波黒大豆の作付面積(市開き取り)	22年度	720ha	703ha	710ha	734ha	750ha	737ha	696ha	733ha	660ha	664ha	640ha		↘		県調査	
		丹波大納言小豆作付面積	丹波大納言小豆の作付面積(市開き取り)	22年度	343ha	358ha	362ha	362ha	336ha	353ha	383ha	355ha	337ha	324ha	328ha		↘		県調査	
		栗新植面積	栗を新たに植えた面積		—	4.5ha	12.5ha	18.2ha	20.4ha	21.7ha	23.8ha	26.8ha	28.7ha	29.7ha	30.0ha		↗		県調査	
		新規就農者数	新たに就農した人の数	22年度	26人	30人	37人	25人	33人	40人	37人	30人	41人	33人	61人		↗		県調査	
		丹波産素材生産量	丹波地域産の素材(丸太)の生産量(丸太の体積)	21年度	15千㎡	17千㎡	29千㎡	29千㎡	30千㎡	28千㎡	32千㎡	29千㎡	51千㎡	52千㎡	37千㎡		↗		県農業統計書	
	ため池改修着手数	ため池の改修に着手した箇所の数	22年度	117箇所	117箇所	117箇所	119箇所	119箇所	120箇所	121箇所	123箇所	123箇所	128箇所	129箇所	132箇所		↗		県調査	
	主観	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合		22年度	69.1%	72.1%	66.5%	78.9%	76.4%	71.7%	71.9%	78.2%	73.9%	69.7%	74.3%	79.4%	↗	66.3%	😊	県民意識調査
地元や県内の農林水産業に、活気が感じられると思う人の割合			—	—	—	16.6%	17.4%	16.5%	17.3%	17.8%	18.1%	17.2%	19.8%	19.0%	↗	22.5%	▼	県民意識調査		
農林業(家庭菜園や里山体験などを含む)に魅力を感じる人の割合			—	—	—	56.2%	52.5%	49.5%	43.2%	53.2%	46.7%	43.8%	43.0%	42.7%	↘			県民意識調査(丹波)		
か② 多 彩 な 魅 力 を 活 か す	客観	観光客入込数	期間内に丹波地域を訪れた観光客の数	22年度	4,416千人	4,467千人	4,638千人	4,319千人	4,304千人	4,455千人	4,482千人	4,655千人	4,683千人	5,072千人	3,634千人		↘		県調査	
		観光消費額	観光客が支出した交通費、宿泊費、土産品費、飲食費等の合計(推計)	22年度	329億円	326億円	331億円	326億円	329億円	342億円	350億円	354億円	389億円	424億円			↗		観光客動態調査	
	主観	住んでいる市・町に、観光などの訪問客が増えていると思う人の割合		22年度	21.8%	31.2%	26.3%	33.0%	39.8%	39.5%	30.0%	39.2%	34.8%	36.3%	36.3%	33.8%	↗	14.9%	😊	県民意識調査
		人に紹介したい観光資源(農産物、郷土料理、まち並み、自然、祭り、人情など)があると と思う人の割合			—	—	—	65.1%	63.2%	65.8%	64.3%	64.4%	60.8%	58.9%	54.7%	55.3%	↘			県民意識調査(丹波)
③ やりがいを感じる「しゅん りゅん」	客観	高校生の地元就職率	就職した新規高卒者のうち、丹波地域内の事業所に就職した人の割合	22年春	57.9%	52.5%	50.9%	52.5%	51.7%	51.8%	49.0%	52.2%	54.9%	44.0%	63.0%		↗		県調査	
		製造品出荷額等	製造品出荷額、製造工程から出たくず・廃物の出荷額、加工賃収入額及びその他収入額の合計	22年度	4,373億円	4,659億円	5,858億円	4,462億円	4,666億円	4,653億円	4,907億円	4,941億円	5,209億円	5,236億円	5,364億円		↗		工業統計調査	
		商品販売額	年間の商品販売額(消費税を含む)	19年度	1,622億円	—	1,258億円	—	1,534億円	—	1,727億円	—	—	—			↗		商業統計調査	
		有効求人倍率(原数値)	ハローワーク登録求職者(有効求職者数)に対し企業求人数(有効求人数)との割合を示す指標	22年度	0.59	0.71	0.75	0.85	1.04	1.21	1.33	1.52	1.62	1.55	0.95		↗			兵庫県 の経済・ 雇用情 勢
		就職フェアinたんば参加企業数	丹波地域の企業への就職面接会に参加した企業の数	22年度	35社	34社	35社	35社	34社	31社	36社	84社	79社	24社	(*)中止		↘		県調査	
		就職フェアinたんば参加者数	丹波地域の企業への就職面接会に参加した人の数	22年度	224人	170人	178人	133人	112人	38人	28人	99人	53人	21人	(*)中止		↘		県調査	
		企業紹介フェア参加企業数	高校生や大学生等向けの丹波地域の企業説明会に参加した企業の数	22年度	29社	29社	30社	31社	18社	26社	31社	31社	30社	32社	(*)中止		↗		県調査	
		企業紹介フェア参加者数	高校生や大学生等向けの丹波地域の企業説明会に参加した人の数	22年度	95人	127人	119人	73人	29人	40人	33人	26人	9人	(*)中止	(*)中止		↘		県調査	
	主観	自分のしごとにやりがいを感じる人の割合		22年度	57.7%	68.3%	63.1%	57.2%	70.7%	64.4%	66.8%	70.4%	73.1%	69.7%	62.4%	70.0%	↗	63.4%	😊	県民意識調査
		商売、事業を新たに始めやすいと思う人の割合		22年度	12.8%	18.5%	14.7%	14.9%	16.4%	13.4%	6.5%	6.7%	5.6%	8.4%	8.1%	8.8%	↘	10.4%	▼	県民意識調査
自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと思う人の割合			—	—	—	7.0%	6.1%	7.7%	6.5%	7.2%	6.4%	6.4%	6.1%	7.4%	↗	10.8%	▼	県民意識調査		
性別や年齢を問わず、働きやすい環境が整っていると思う人の割合		22年度	5.6%	12.7%	5.4%	9.4%	6.1%	9.3%	7.4%	8.0%	8.0%	8.4%	9.3%	9.8%	↗	12.5%	▼	県民意識調査		
	住んでいる市・町の企業には活気が感じられると思う人の割合			—	—	—	17.8%	14.7%	17.5%	13.7%	17.7%	23.2%	20.7%	21.9%	21.6%	↗	26.6%	▼	県民意識調査	

※1: 主観指標(令和3年)について、県下地域別で最高値のものは網掛、最低値のものは白抜きで表示

※2: 基準年と最新年の比較は、平成22年度(統計結果が無い場合はその直前年度)と最新年度を比較し、向上を「↗」、低下を「↘」で表示。ただし、1%未満の変動は「→」で表示。

※3: 全県値との比較は丹波地域の値が全県値より上位のものは「😊」、下位のものは「▼」で表示

*印の欄については、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業規模の縮小による大幅な数値の減少や、事業の中止があった。

(4) 絆 (将来像4)

客観指標数18・主観指標数9 合計27

基本項目	指 標		【基準年】		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	基準年と最新年の比較 ※2	全県値との比較 (R3 主観指標)		出典	
	名称等	指標の内容	平成22年(度)		(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	(度)	※1		全県値	評価 ※3		
① つながりのある「地域・家庭」	客観	小規模集落数	高齢化率40%以上かつ50世帯以下の集落の数	22年9月末	29箇所	33箇所	45箇所	50箇所	57箇所	72箇所	84箇所	100箇所	108箇所	107箇所		↘			県調査	
		三世同居世帯比率	三世が同一住居に住んでいる世帯の割合	22年	16.7%	—	—	—	—	13.5%	—	—	—	—		↘			国勢調査	
	主観	頼りになる知り合いが近所にいる人の割合		22年度	66.1%	75.1%	66.8%	71.5%	72.3%	73.1%	67.5%	70.4%	70.3%	74.4%	71.1%	↗	62.4%	☺	県民意識調査	
		住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがある人の割合		22年度	55.7%	62.1%	58.6%	67.7%	70.9%	71.7%	61.8%	65.4%	69.1%	71.9%	68.7%	↗	49.3%	☺	県民意識調査	
		住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合		22年度	61.0%	70.4%	62.8%	72.0%	78.2%	71.1%	65.4%	75.5%	71.7%	74.3%	69.0%	76.5%	↗	75.9%	☺	県民意識調査
		家族とのコミュニケーションがとれている人の割合		—	—	—	89.4%	86.4%	87.0%	82.5%	86.5%	90.0%	89.0%	89.1%	90.2%	↗	90.2%	☺	県民意識調査	
② 地域ぐるみの「子育て」	客観	合計特殊出生率	一人の女性が一生に生む子どもの平均数	22年	1.60	—	—	—	—	1.54	—	—	—	—		↘			国勢調査	
		保育所等入所者数	保育所・幼保連携型認定こども園への入所者の数	22年10月	2,194人	2,152人	2,129人	2,234人	2,331人	2,527人	2,569人	2,568人	2,535人	2,552人		↗			県調査	
		ファミリーサポートセンター会員数	地域で子育て支援を受けたい人で行いたい人が相互に援助活動を行う会員組織の会員数	22年度	485人	515人	544人	546人	555人	534人	554人	553人	566人	572人	566人		↗			県調査
		延長保育・休日保育実施箇所数	通常の保育時間を超えて保育を行ったり、日曜日・祝日に保育を行っている保育所の数	22年4月1日	14箇所	18箇所	18箇所	15箇所	26箇所	20箇所	19箇所	19箇所	21箇所			↗			県調査	
		放課後児童クラブ数	保護者が就労等し家庭にいない児童を、放課後、保護者に代わって保育する施設等の数	22年4月1日	25箇所	26箇所	27箇所	27箇所	28箇所	29箇所	33箇所	33箇所	34箇所	33箇所	33箇所		↗			県調査
		まちの子育て広場開設数	子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりを通じ子育ての相談や情報交換等を行う場の数	22年度	54箇所	55箇所	55箇所	54箇所	51箇所	47箇所	47箇所	46箇所	49箇所	46箇所	46箇所		↘			県調査
		子どもの冒険広場の利用者数	小学生等が自主性を持って自由に遊び生きる力を育むために設置した場を利用した人の数	22年度	1,276人	3,535人	6,217人	6,062人	2,349人	3,815人	4,219人	7,372人	5,468人	8,181人	8,481人		↗			県調査
		若者ゆうゆう広場の利用者数	中・高校生等が気軽に集い交流するために設置した場を利用した人の数	22年度	3,900人	4,100人	4,891人	4,646人	5,183人	4,480人	3,433人	3,008人	2,854人	2,754人	1,601人		↘			県調査
		子育て家庭応援推進員数	知事の委嘱を受け子育て家庭への見守りや声かけなどを行っている人の数	22年度	62人	62人	60人	60人	61人	61人	56人	56人	54人	46人	43人		↘			県調査
	子育て応援締結企業数	地域の子育て家庭の応援や従業員の子育てと仕事の両立支援を進める協定を県と締結した企業等の数	22年度	51社	56社	61社	62社	61社	63社	64社	75社	72社	72社	72社		↗			県調査	
	主観	住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合		—	—	—	39.3%	49.8%	47.5%	36.7%	49.8%	46.9%	49.4%	45.6%	44.9%	↗	35.4%	☺	県民意識調査	
		住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合		—	—	—	52.7%	52.6%	51.3%	38.4%	54.0%	46.6%	47.4%	50.6%	47.9%	↘	58.8%	▼	県民意識調査	
住んでいる地域の子どもは、伸び伸びと育っていると思う人の割合		22年度	69.8%	75.4%	71.1%	71.4%	70.4%	68.9%	68.6%	72.2%	70.0%	73.7%	69.8%	68.2%	↘	64.3%	☺	県民意識調査		
③ 安心して暮らせ、活躍の場がある「高齢者」	客観	老人医療対象人員	65歳以上70歳未満の人の疾病・負傷について医療保険給付後、公費助成の対象となった人の数	23年2月末	1,067人	413人	436人	422人	421人	396人	390人	309人	228人			↘			社会福祉統計年報	
		要支援・要介護認定率	介護保険第1号被保険者数(65歳以上)のうち要支援・要介護認定を受けた人の比率	23年1月末	16.7%	17.3%	17.7%	18.3%	18.7%	19.0%	19.4%	19.0%	19.3%	19.5%	19.5%		↘			社会福祉統計年報
		老人クラブ数	老人クラブの数	22年4月1日	273クラブ	270クラブ	261クラブ	255クラブ	232クラブ	220クラブ	219クラブ	196クラブ	205クラブ	145クラブ	132クラブ		↘			県調査
		シルバー人材センター就業延べ人員	県内のシルバー人材センターで就業した会員の就業延べ人数	22年度	105,512人	104,721人	91,683人	93,719人	94,535人	131,501人	111,019人	109,683人	110,393人	107,188人	108,465人		↗			兵庫県シルバー人材センター協会調べ
		高齢者の就業率	65歳以上の人口に占める就業者数の割合	22年	25.7%	—	—	—	—	29.2%	—	—	—	—		↗				国勢調査
		丹波OB大学受講者数	高齢者の学習と交流機会、魅力ある地域社会の実践者を要請する大学で受講した人の数	22年度	181人	179人	211人	230人	245人	242人	225人	223人	201人	164人	128人		↘			丹波の森公園調査
	主観	住んでいる地域は、高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合		—	—	—	47.5%	40.9%	43.3%	35.7%	40.2%	39.3%	37.4%	43.2%	43.7%	↘	54.2%	▼	県民意識調査	
高齢者の知恵や経験が積極的に活用されていると思う人の割合		—	—	—	31.4%	24.7%	23.4%	28.6%	25.5%	26.9%	23.2%	24.6%	18.1%	↘				県民意識調査(丹波)		

※1：主観指標（令和3年）について、県下地域別で最高値のものは網掛、最低値のものは白抜きで表示

※2：基準年と最新年の比較は、平成22年度（統計結果が無い場合はその直前年度）と最新年度を比較し、向上を「↗」、低下を「↘」で表示。ただし、1%未満の変動は「→」で表示。

※3：全県値との比較は丹波地域の値が全県値より上位のものは「☺」、下位のものは「▼」で表示

※印の欄については、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業規模の縮小による大幅な数値の減少や、事業の中止があった。

(5) 安全安心 (将来像5)

客観指標数15・主観指標数16 合計31

基本項目	指 標		【基準年】 平成22年(度)	平成23年 (度)	平成24年 (度)	平成25年 (度)	平成26年 (度)	平成27年 (度)	平成28年 (度)	平成29年 (度)	平成30年 (度)	令和元年 (度)	令和2年 (度)	令和3年 (度) ※1	基準年と最新年 の比較 ※2	全県値との比較 (R3 主観指標)		出 典			
	名 称 等	指標の内容														全県値	評価 ※3				
① 誰もが暮らしやすい「社会」	客観	就労移行支援事業者数、就労継続支援A型・B型事業者数	障害のある人が就労に必要な知識・能力向上のために訓練等を行っている事業者の数	22年2月末 10箇所	13箇所	13箇所	13箇所	14箇所	15箇所	14箇所	17箇所	21箇所	22箇所	21箇所		↗			県調査		
		女性の就業率	女性の15歳以上人口のうち、就業している人の割合	22年 47.6%	-	-	-	-	50.2%	-	-	-	-	-	-		↗			国勢調査	
		自殺数	自殺をした人の数	22年 19人	31人	33人	28人	26人	15人	27人	20人	23人	25人	16人		↗				保健統計年報	
		産業廃棄物の大規模不法投棄事案(投棄量)	産業廃棄物の不法投棄事案のうち1件当たりの投棄量が10トン以上の事案	22年度 318t	47t	234t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t		↗				県調査
		消費生活相談件数	市消費生活センターが受け付けた消費生活相談の件数	22年度 600件	623件	610件	769件	796件	680件	672件	567件	667件	580件	620件		↘					県調査
		交通事故死傷者数	車両等による事故で死亡・負傷した人の数	22年 656人	671人	719人	694人	598人	511人	519人	511人	402人	318人	257人		↗					県調査
		街頭犯罪・侵入犯罪認知件数	警察に認知された街頭犯罪・侵入犯罪の件数	22年 598件	497件	501件	477件	385件	427件	766件	554件	467件	446件	372件		↗					県調査
	主観	男女共同参画社会づくり協定締結事業所数	男女共同参画の取組を進める協定を県と締結した事業所の数	22年度 63社	66社	70社	71社	72社	74社	76社	78社	81社	80社	80社		↗					県調査
		住んでいる地域は買い物や通院に便利だと思ふ人の割合		22年度 39.7%	34.0%	30.6%	38.5%	37.7%	30.1%	33.0%	34.9%	31.0%	36.6%	43.0%	41.4%	↗		63.7%	▼		県民意識調査
		不当な差別がない社会だと思ふ人の割合		22年度 25.3%	30.6%	31.1%	49.7%	35.9%	31.2%	33.3%	37.9%	33.9%	32.3%	31.7%	26.8%	↗		23.3%	☺		県民意識調査
		住んでいる地域は、障害のある人も暮らしやすいと思ふ人の割合		-	-	-	26.6%	26.0%	26.9%	23.0%	23.2%	23.3%	21.1%	29.9%	25.8%	↘		32.0%	▼		県民意識調査
		若者が希望を持てる社会だと思ふ人の割合		22年度 4.9%	4.4%	5.4%	11.3%	10.7%	10.1%	8.2%	11.6%	11.6%	13.2%	10.4%	10.5%	↗		11.5%	▼		県民意識調査
		住んでいる市・町の駅前や商店街に、活気が感じられると思ふ人の割合		22年度 5.6%	8.1%	4.1%	8.6%	7.2%	4.7%	5.1%	7.9%	7.7%	6.3%	6.1%	4.6%	↘		21.1%	▼		県民意識調査
		住んでいる地域の公共交通は便利だと思ふ人の割合		22年度 14.1%	16.7%	11.7%	17.5%	23.6%	18.1%	11.6%	12.3%	10.5%	13.5%	13.8%	12.2%	↘		56.2%	▼		県民意識調査
住んでいる市・町は、外国人にも住みやすくなっていると思ふ人の割合		-	-	-	18.6%	5.2%	6.8%	12.4%	20.9%	13.7%	17.3%	19.7%	16.4%	↘		30.5%	▼		県民意識調査		
男女が支え合う地域や家庭づくりが進んでいると感じる人の割合		-	-	-	20.5%	18.8%	17.6%	17.4%	25.0%	20.3%	20.1%	18.4%	16.7%	↘					県民意識調査(丹波)		
② 守り育てる「健康・地域医療」	客観	健康寿命	日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間	男性77.86年 女性83.12年	-	-	-	-	平成27年 男性79.22年 女性84.20年	-	-	-	-	-		↗				健康づくり推進実態計画	
		人口10万人あたりの医師数	丹波地域の医師の数を10万人あたりに置き直した数	22年12月末 165.7人	-	175.0人	-	177.9人	-	194.1人	-	206.1人				↗					医師・歯科医師・薬剤師調査
		人口10万人あたりの病床数	丹波地域の病床数を10万人あたりに置き直した数	22年10月1日 1,454.7床	1,458.5床	1,472.0床	1,448.6床	1,505.4床	1,450.8床	1,459.6床	1,475.6床	1,491.1床	1,428.1床			↘					医療施設調査
	主観	かかりつけの医者がある人の割合		22年度 69.1%	73.9%	72.2%	74.0%	70.6%	78.6%	70.5%	75.7%	81.2%	80.3%	77.6%	75.3%	↗		69.7%	☺		県民意識調査
		心身ともに健康であると感じる人の割合		22年度 58.2%	58.7%	57.5%	71.1%	66.2%	69.2%	62.4%	66.4%	66.5%	68.5%	68.3%	63.4%	↗		67.1%	▼		県民意識調査
		医療機関の適切な受診を心がけている人の割合		-	-	-	88.2%	83.4%	86.0%	86.9%	86.6%	88.5%	79.9%	78.5%	80.5%	↘					県民意識調査(丹波)
③ 安全・安心に暮らせるための「備え」	客観	まちづくり防犯グループの組織率	自治会の区域を活動区域として自主的に地域安全のまちづくり活動に取り組む団体数が自治会数に対して占める割合(カバー率)	22年度 97.1%	97.1%	97.7%	97.7%	97.7%	100%	100%	97.7%	97.7%	98.7%	98.7%		↗				県調査	
		地域安全まちづくり推進員の委嘱数	知事の委嘱を受け犯罪防止や犯罪を招く環境を改善する活動を行っている人の数	22年度 50人	54人	50人	44人	40人	45人	46人	46人	42人	32人	36人		↘					県調査
		兵庫県住宅再建共済制度加入率	災害発生時に被害を受けた住宅の再建・補修を支援する制度に加入した割合	22年度 12.4%	12.9%	12.8%	13.0%	13.6%	13.7%	13.7%	13.6%	13.6%	13.5%	13.4%		↗					県調査
		ひょうご防災リーダー養成者数	地域・職場の防災活動の担い手となるリーダー養成のための講座を受講し、修了した人の数	22年度 36人	43人	88人	90人	93人	96人	122人	130人	137人	155人	157人		↗					県調査
	主観	住んでいる地域は治安が良く、安心して暮らせると思ふ人の割合		-	-	-	88.9%	86.0%	79.5%	80.1%	86.5%	78.9%	87.4%	86.9%	85.0%	↘		79.6%	☺		県民意識調査
		住んでいる地域では、住民による登下校時の見守り・夜間パトロールや街灯整備などの安全・安心を守る取り組みが行われていると思ふ人の割合		22年度 79.2%	80.0%	74.7%	75.3%	72.3%	68.6%	73.4%	76.5%	71.7%	76.1%	74.1%	72.6%	↘		71.8%	☺		県民意識調査
		住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思ふ人の割合		-	-	-	31.7%	39.4%	39.1%	33.9%	39.6%	36.6%	42.5%	43.2%	39.2%	↗		34.4%	☺		県民意識調査
		住んでいる地域で、災害に備えた話し合いや訓練に参加している人の割合		-	-	-	34.0%	43.3%	48.9%	35.2%	42.0%	36.7%	44.4%	42.1%	37.8%	↗		21.5%	☺		県民意識調査
家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合		-	-	23.9%	31.2%	35.3%	34.7%	28.1%	42.1%	38.3%	32.5%	41.9%	39.4%	↗		43.3%	▼		県民意識調査		

※1: 主観指標(令和3年)について、県下地域別で最高値のものは網掛、最低値のものは白抜きで表示

※2: 基準年と最新年の比較は、平成22年度(統計結果が無い場合はその直前年度)と最新年度を比較し、向上を「↗」、低下を「↘」で表示。ただし、1%未満の変動は「→」で表示。

※3: 全県値との比較は丹波地域の値が全県値より上位のものは「☺」、下位のものは「▼」で表示

*印の欄については、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業規模の縮小による大幅な数値の減少や、事業の中止があった。

アンケートの結果

現行ビジョンの5つの将来像の達成状況の把握し、また丹波地域への率直な思いを様々な形で伺うため、丹波地域に関わりのある方を対象としたアンケート調査を行った

概要

- 1 アンケート名 丹波地域の今とこれからのに関するアンケート
- 2 調査対象 丹波地域に関わりのある方
(丹波篠山市及び丹波市外の在住者も含む)
- 3 実施形式 計15問のアンケートにweb上で回答
- 4 調査期間 令和3年8月24日(火)～令和3年9月30日(木)まで
- 5 回答数 983名

項目	結果概要
〔Q1〕主体的に地域課題の解決に活動する地域か	丹波地域が地域課題に主体的に解決する地域とみる人が、「そう思う(15%)」「まあそう思う(43%)」と半数以上を占める
〔Q2〕移住者(地元の方)との交流はあるか	「そう思う(16%)」「まあそう思う(40%)」と、移住者と地域の方の交流は進んでいる
〔Q3〕地域との関わりを深めたいか	地域との関わりを今よりも深めたいと思っている人が「そう思う(21%)」「まあそう思う(46%)」と多数にのぼる
〔Q4〕誰もが地域の一員として役割を發揮できているか	「そう思わない(12%)」「あまり思わない(34%)」の割合が「そう思う(7%)」「まあそう思う(32%)」の割合を上回り、誰もが地域の一員として役割を發揮できているとみる人は多くない
〔Q5〕10年前に比べて豊かになったか	この10年で、丹波地域の生活の利便性が良くなったと思う人が増えている
〔Q6〕丹波地域の活気に結び付くと感じる産業	「農林業」が最も丹波地域の活気に結び付く産業と認識されており、次いで「宿泊、飲食サービス業」、「医療、福祉」が続く
〔Q7〕10年前から食の関心は高まっているか	この10年で、食への関心が高まっていると思う人は「そう思う(13%)」「まあそう思う(48%)」と増えている
〔Q8〕誇りを持って「帰ってこい」と言えるか	誇りを持って「帰ってこい」といえる地域だと思う人は「そう思う(10%)」「まあそう思う(33%)」と、まだ少数にとどまっている
〔Q9〕「ふるさと丹波」で思い浮かべるもの	「ふるさと丹波」という言葉で思い浮かべるものとして「丹波の自然が」最も多く、次いで「黒豆や栗などの味覚」が続く
〔Q10〕丹波の森づくりの理念や活動を知っているか	若い世代を中心に、丹波の森づくり自体知らない人も増えてきている
〔Q11〕社会が変化する中、丹波地域も変わる必要があるか	「そう思う(50%)」「まあそう思う(36%)」と、多くの人が丹波地域の変化の必要性を感じている
〔Q12〕20年前(10年前)の夢が叶ったか	「そう思う(6%)」「まあそう思う(26%)」と、20年前や10年前の夢が叶ったと感じる人は少数派である
〔Q13〕2050年、人型ロボットはあるか	「そう思う(18%)」「まあそう思う(23%)」と、4割程度にとどまる
〔Q14〕2050年、空飛ぶクルマ等で自由に移動できるか	「そう思う(13%)」「まあそう思う(22%)」と、4割程度にとどまる
〔Q15〕地域にどんな恩返しや貢献ができるか	437人から回答があった(回答率44%) ※意見の一部は<調査結果>を参照
〔自由記述〕丹波地域にあったらいいなと思うもの、地域への不満 など	309人から回答があった(回答率31%) ※意見の一部は<調査結果>を参照

<10代の回答の特徴（全体との比較）>

- ・以下の設問では、「そう思う」「まあそう思う」の回答割合で、10ポイント以上の差が見られた

〔Q4〕誰もが地域の一員として役割を発揮できているか

10代：58% > 全体：39%

〔Q10〕丹波の森づくりの理念や活動を知っているか

10代：7% < 全体：27%

〔Q12〕20年前(10年前)の夢が叶ったか

10代：12% < 全体：32%

- ・複数回答の以下設問では、順位の差などで異なる傾向が見られた

〔Q5〕10年前に比べて豊かになったか

全体では、10代に比べ「豊かになったと思わない」と思う割合が高かった

〔Q6〕丹波地域の活気に結び付くと感じる産業

10代・全体とも第1位は「農業、林業」であったが、第2位は、10代では「医療、福祉」であるのに対し、全体では「宿泊業、飲食サービス業」であった

- * 全体で見ると、誰もが地域の一員として役割を発揮できているとみる人は多くはない一方で、10代の半数以上の方が、丹波地域では誰もが地域の一員として役割を発揮できていると感じている。このことから、地域づくりの潜在的な担い手はまだいると考えられる
- * 丹波の森づくりについて、その理念や活動を知っている人は、全体でも3割未満と少ないが、10代では1割未満と更に少ない。地域社会に目を向けると、地域（森）づくりが進展するなかでも、人口減少・高齢化に伴いコミュニティ機能の維持が年々難しくなりつつある。今一度、原点である丹波の森づくりの理念に立ち返り、運動としての森づくりの気運を高めつつも、これまでの習慣や枠組みにとらわれず、時代に即した新しいコミュニティのあり方を模索していく必要がある
- * 「10年前の夢が叶ったか」という質問に対して、10代は「そう思う」「まあそう思う」の割合が12%と低い数値であった。これは、「どちらともいえない」の回答が約半数を占めていることから、丹波地域の10代は夢の実現に向け歩んでいる途中であるとも言える。ただし、全体で見ても「そう思う」「まあそう思う」の割合は32%にとどまっている
- * 丹波地域を活気づけると感じる産業として、全体・10代とも第1位は「農業、林業」であった。全体では、第2位、第3位が「宿泊業、飲食サービス業」「医療、福祉」の順に続いた。一方10代では「医療、福祉」「宿泊業、飲食サービス業」の順で続き、その順位が逆転している。また第4位は、全体・10代とも「教育、学習支援業」であるが、10代ではその割合が高く、自分事として捉えやすい分野の産業が、地域の活気に結びつくと思われている

<回答者の属性（フェイスシート）>

○性別

男性	541
女性	423
指定しない	14
無回答	5
計	983

○年齢

10代	236
20代	82
30代	96
40代	182
50代	229
60代	116
70代	36
80代以上	4
無回答	2
計	983

○居住地

丹波篠山市	196
丹波市	538
その他	240
無回答	9
計	983

○ビジョン委員の経験者(複数回答)

第1期(平成13～14年度)	4
第2期(平成15～16年度)	7
第3期(平成17～18年度)	0
第4期(平成19～20年度)	5
第5期(平成21～23年度)	7
第6期(平成24～25年度)	9
第7期(平成26～27年度)	9
第8期(平成28～29年度)	18
第9期(平成30～31年度)	21
第10期(令和2～3年度)	19
ビジョン委員の経験はないが、興味・関心がある	139

○職業

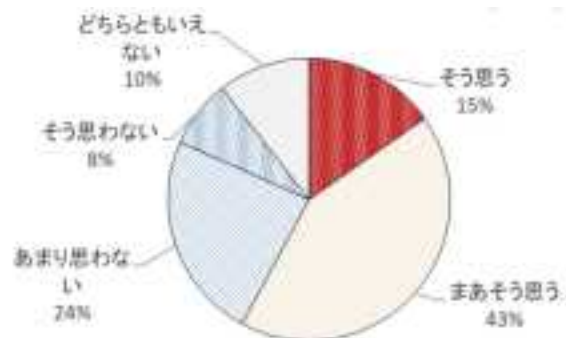
自営業	65
正規の職員、従業員	421
会社などの役員	38
派遣社員	6
家族従業者	4
パート・アルバイトなど	98
学生	254
専業主婦(夫)	17
無職	29
その他	49
無回答	2
計	983

○居住地が「その他」の方の
丹波地域とのつながり(複数回答)

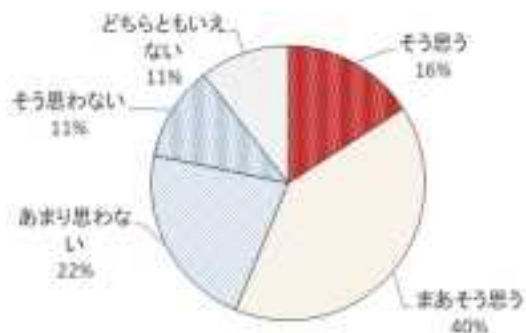
丹波地域で生まれた、 または暮らしたことがある	78
親戚の家がある	40
仕事やボランティアで関わっている	139
観光で訪れる	43
その他(学生団体の活動など)	21
計	321

<調査結果>

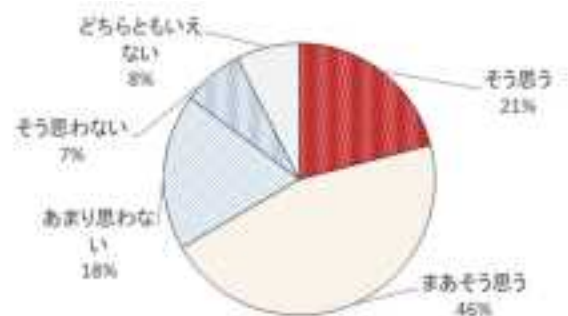
Q1. 丹波地域は、地域課題の解決に向けて地域住民が主体的に活動する地域だと思いますか。



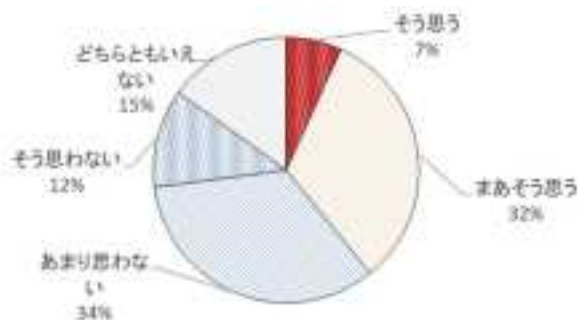
Q2. (丹波地域が地元の方) 丹波地域へ移住されてきた方との交流はあると思いますか。(移住してこられた方) 地域の人との交流はあると思いますか。



Q3. あなたは、地域との関わり(自治会活動への参加、困ったときの支えあいなど)を今よりも深めたいと思っていますか。



Q4. 丹波地域では、国籍、文化、年齢、性別、障がいの有無などに関わりなく、誰もが地域の一員として役割を発揮できていると思いますか。



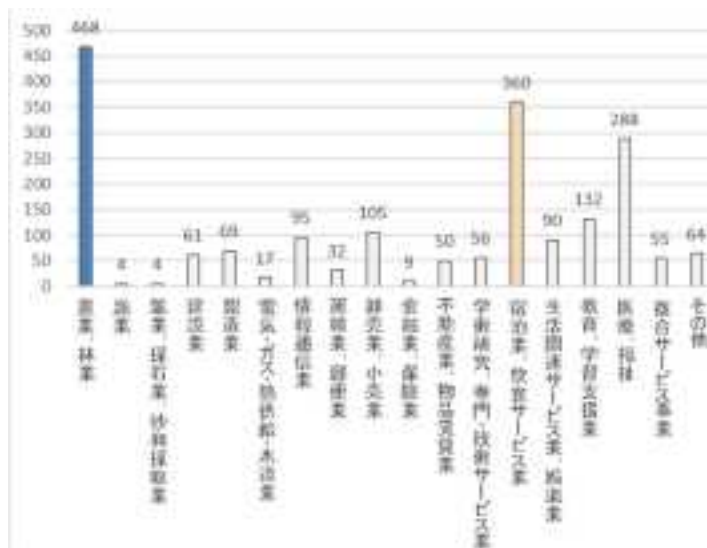
Q5. 丹波地域の暮らしや社会は、10年前と比べて豊かになったと思いますか。(複数回答可)



Q5「その他」の回答例

1	地域性もあると思いますが、段々と静かになってきた感じがします。皆さんと私も含め、歳を取ってきたんだと感じます 活気は無くなったわけでもなく、ただ日常を送って行く事(田んぼや畑仕事・自治会活動)が大変そうです
2	どの項目も地域差を感じる
3	賑わいが増えた地域と、過疎化が進んだ地域と大きく開いてきていると感じる
4	10年前と比べ、休耕田が激増し、荒れた土地が増えた。山も同様に荒れたまま放置されている
5	そもそも、「暮らしや社会」が10年単位で変化するような時代ではないと思います。よって、判断できない。がお答えです
6	市街地への人口移動が進みむ中、市街地は利便性が向上し、農村部はますます不便になってきている
7	多様な価値観や表現ができやすい地域になった

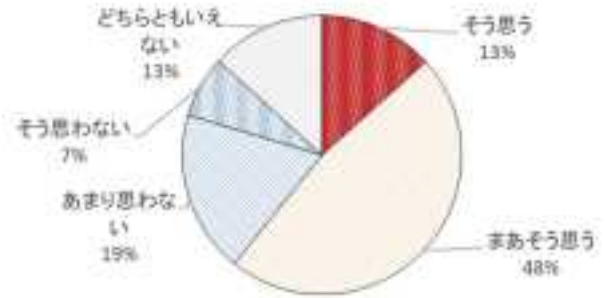
Q6. この10年間で、丹波地域の活気に結び付くと感じた産業はありますか。(複数回答可)



Q6「その他」の回答例

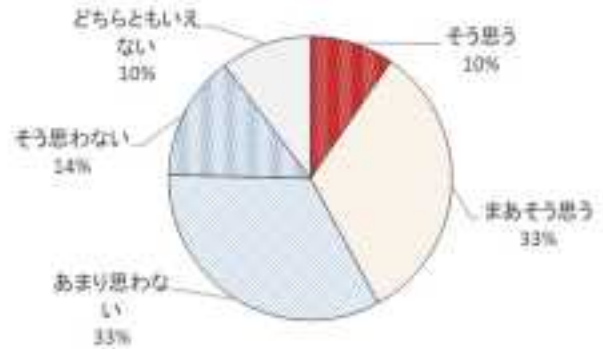
1	丹波という食の代名詞という地域ならではの地産地消の安全な給食の提供や、自然と共に成長できる子供の教育環境を整えられる能力が丹波地域にはあると思うし、それを実践することで、過疎化を減少させ、都市からの人口流入を増加することが可能になると思う
2	良きにつけ悪しきにつけ、活気につながる要素と感じたこと 良：大型店の進出、多様な飲食店の起業、医療、 悪：個人経営小売店の減少、農業生産者の減少、宿泊業の減少
3	パン、菓子などの飲食
4	観光産業
5	Iターンの方たちによる活躍

Q7. 丹波地域は、10年前と比べて農作物の地産地消や食育が進み、食に対する意識や関心が高くなっていると思いますか。

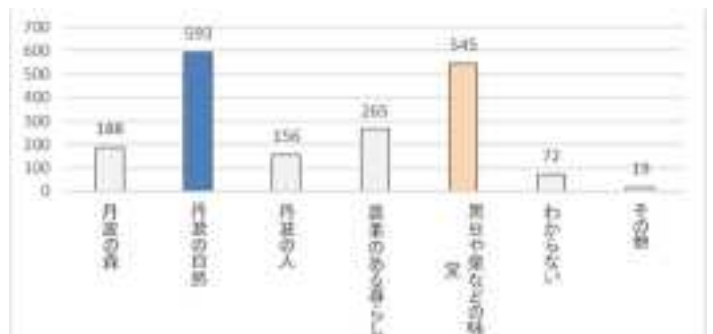


Q8. 丹波地域は、進学や就職などで一度地域を離れた人に、誇りを持って「住みたい、子育てしたい、帰ってきてほしい」と言える地域だと思いますか。

(生徒、学生の方) 進学等で丹波地域を離れても丹波地域に戻ってこよう、またはずっと丹波地域に住みたいと思っていますか。



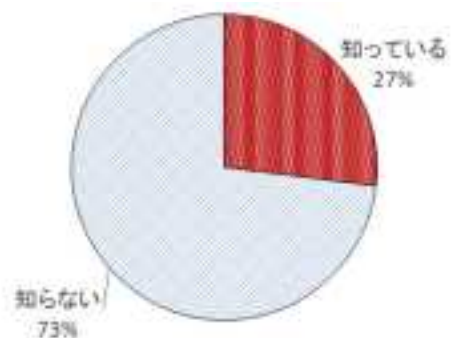
Q9. 「ふるさと丹波」という言葉で、何を思い浮かべますか。(複数回答可)



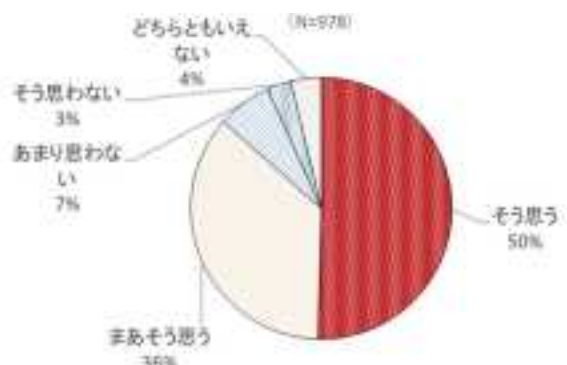
Q9「その他」の回答例

1	田舎 (たぶん、「ふるさと」の部分から) 固定概念 (古き良き時代を今に伝えたいといった考えの押しつけ感)
2	古い街並み 自然の中でのゆったりとした暮らし 食や自然、伝統行事などから感じることのできる四季
3	歴史、文化、立杭焼等の伝統産業
4	お寺 (もみじ等)
5	農村の風景

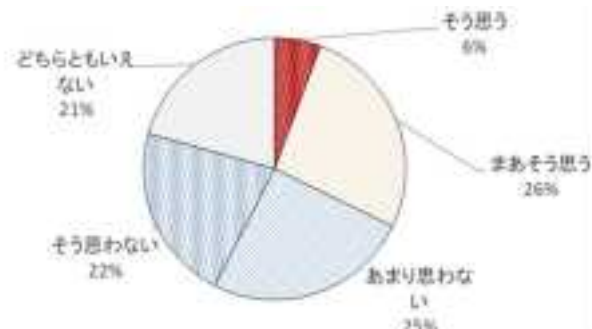
10. 「丹波の森づくり」の理念や活動を知っていますか。



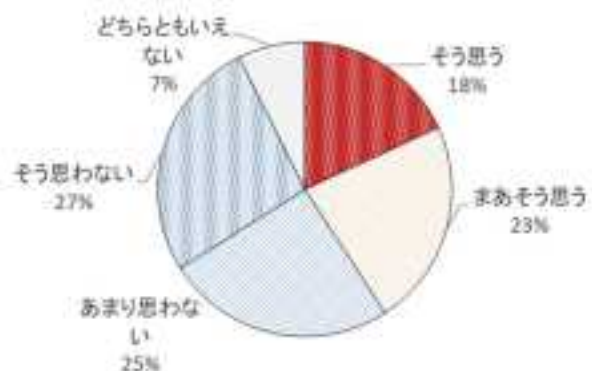
Q11. 国際化、情報化が進み、社会が変化していく中で、丹波地域も変わっていく必要があると思いますか。



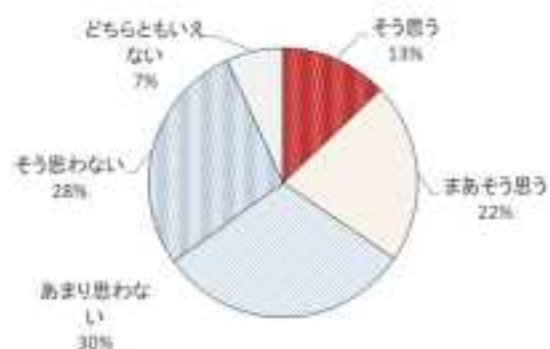
Q12. あなたが、20年前（20歳になっていない人は10年前）に思い描いていた夢は叶いましたか。



Q13. 2050年、あなたの家に人型ロボットはありますか。



Q14. 2050年、空飛ぶクルマなどで、行きたいところに自由に行けるようになっていませんか。



Q15. あなたが地域に恩返しや貢献ができるとしたら、どんなことですか（自由記述）

○多かった意見

- ・地元である丹波地域に住み続け、働き、子育てすること。
- ・自分の得意分野、経験、技能を生かして、地域の活性化に役立てたい。
- ・世代間の橋渡し、人と人や地域内外をつなぐ役割を果たす。
- ・丹波地域の魅力を広め、伝えること。

○特色のある意見を一部抜粋

1	移住者が増えることが望ましいが、丹波を第2の故郷として2拠点生活やボランティアなどに参加する方が、増えるような活動にかかわっていききたい
2	まだまだ男女の格差（全て）があり、女性が住み続けたいと思う方が少ないので、地元地域から昔からの封建的な処を変えられるようにしてみたい
3	温故知新という言葉があるように、歴史のある街丹波の個性を残しつつ、更に現代の新技術とマッチングさせた新たな取り組みを提案することで、このまちや次世代に丹波の魅力を伝えていきたい
4	世間話のなかで話題になるけど、ふわっとしていて消えてしまう想いやアイデア、危機感を記録し、他の人や未来世代に伝えていくこと。政策立案に役立てる形にまとめること。
5	学生でも関係なく地域と関わっていくこと 地域に元気を与えること
6	長年の海外暮らしと様々な国の人と働いた経験から、地域のボーダレス化のお役に立ちたい また、第一次産業の人手不足時のヘルプがしたい

*10代においては、「将来、丹波地域に帰ってくる」とが恩返しと考える回答が最も多かった

【自由記述】質問の回答に対する補足、丹波地域にあったらいいなと思うもの、丹波地域の今やこれからの関すること、地域への不満、その他ご意見・ご感想など、自由にご記載ください。

○多かった意見

- ・子どもや若者が遊べる施設、場所が少ないので、丹波地域にあるとよい
- ・車（マイカー）がなくても不便を感じないように、電車やバス等の交通機関を発展させてほしい
- ・丹波の豊かな自然や恵みを守り、地域外にもっとアピールしていくべき
- ・耕作放棄地が増えている。生産者が儲かるような農業の仕組みをつくり、農業従事者が意欲をもって取り組めるような政策が必要

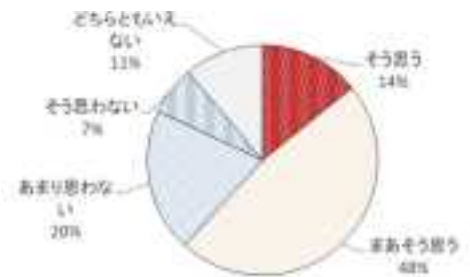
○特色のある意見を一部抜粋

1	地域ビジョン委員会の活動を県民局が支援しているように、「交流促進パワーアップ事業」などを生きがいつくりのために、自由意思で集まる少数の人たちが、気軽に、長期間成果を上げることがあまり期待せずに活用できるものにしていけば、あちこちに地域活動を担う小さなグループが出来て、地域活性化につながるのではないかと思います
2	林業が廃れて価値を回復できない山だらけの地域となっている。廃れた人工林だらけで自然豊かな山とは到底言えず、生物の乏しい川は貧しい川としか映らない。魅力を失ったこれらの自然環境を魅力ある自然に復活することが田舎の本当の魅力創出に不可欠と考える
3	・丹波地域のシンボリックなイベント、観光施設、グルメはあったら良いと思います。また、大規模な工場団地を造成し企業誘致に取り組み、若い世代の雇用確保が必要であると思います ・丹波の森構想はすばらしい理念であるが、丹波の荒廃した森林を見ると説得力のないようなイメージを受ける

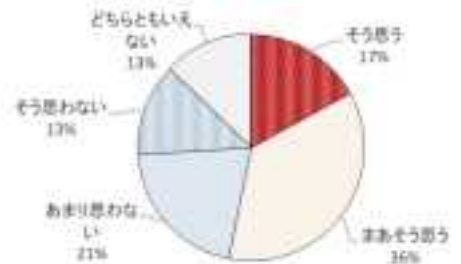
4	<p>長年にわたる「丹波の森」などの取組から、丹波地域の良さを守っていく意識の醸成は、ほかの地域よりもできていると思う</p> <p>しかし、加東市のように人口増になっている近隣自治体があるなかで、丹波地域はすでにこれだけ人口減少が進む地域になっているので、新しいものを取り込んだり、チャレンジすることにおっくうになってはいけないと思う。移住者、スマート農業機器、ノマドワーカーの受入れなど</p> <p>さらには、空飛ぶ車などの革新技术は、どこの地域もスタートラインに立っていないのだから、2025年の万博に向け、急ピッチで丹波地域で1つに狙いを定めてやったらいいと思う。子どもの成長と同じで、1つできれば、そのうち2つめができるようになると思います</p>
5	<p>国際化や情報化については、そんな時代だからこそ、門戸を開くこと、寛容性は大切だと思う。一方で、だからと言って、丹波が変わらなければならない、と考える必要はなく、丹波の良さをより磨きながら、地域としての個性や価値観を大切にしてほしいと願います。そうすることで、国際化や情報化の時代に、丹波はより輝けると思うからです</p>

<調査結果>10代抽出（選択式の設問のみ）

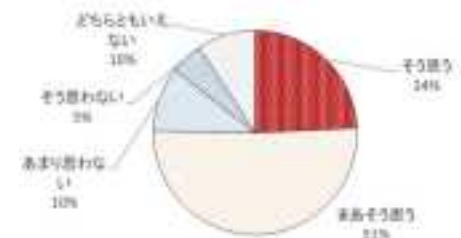
Q1. 丹波地域は、地域課題の解決に向けて地域住民が主体的に活動する地域だと思いますか。



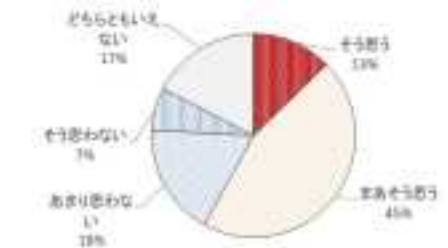
Q2. （丹波地域が地元の方）丹波地域へ移住されてきた方との交流はありますか。（移住してこられた方）地域の人との交流はありますか。



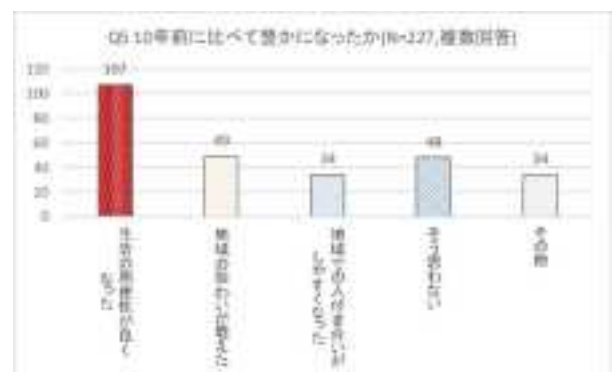
Q3. あなたは、地域との関わり（自治会活動への参加、困ったときの支えあいなど）を今よりも深めたいと思っていますか。



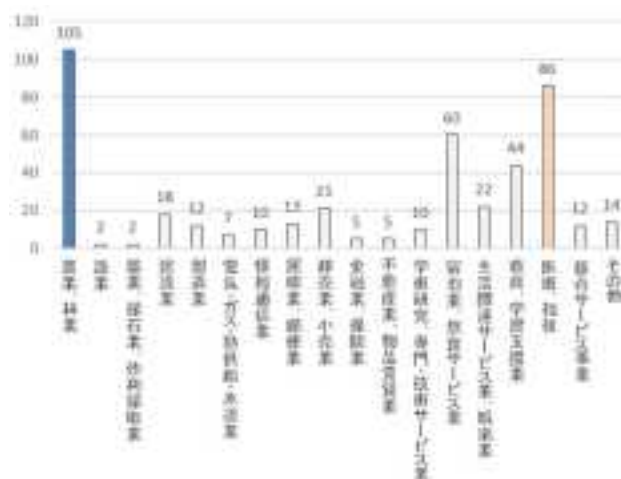
Q4. 丹波地域では、国籍、文化、年齢、性別、障がいの有無などに関わりなく、誰もが地域の一員として役割を發揮できていると思いますか。



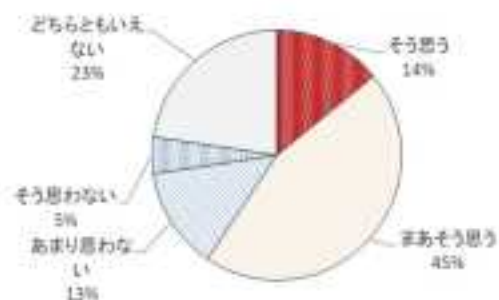
Q5. 丹波地域の暮らしや社会は、10年前と比べて豊かになったと思いますか。（複数回答可）



Q6. この10年間で、丹波地域の活気に結び付くと感じた産業はありますか。(複数回答可)

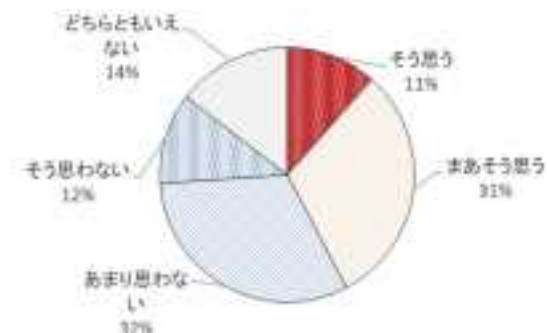


Q7. 丹波地域は、10年前と比べて農作物の地産地消や食育が進み、食に対する意識や関心が高くなっていると思いますか。

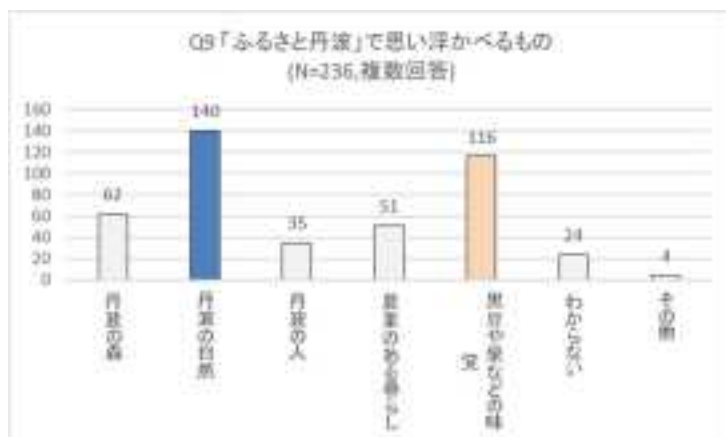


Q8. 丹波地域は、進学や就職などで一度地域を離れた人に、誇りを持って「住みたい、子育てしたい、帰ってきてほしい」と言える地域だと思いますか。

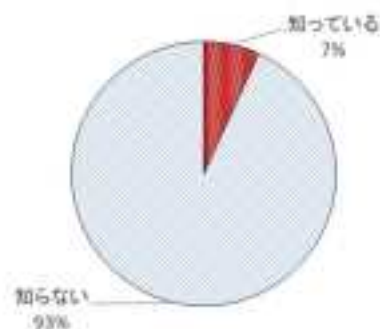
(生徒、学生の方) 進学等で丹波地域を離れても丹波地域に戻ってこよう、またはずっと丹波地域に住みたいと思っていますか。



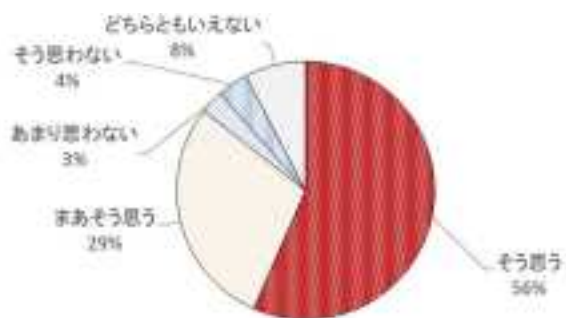
Q9. 「ふるさと丹波」という言葉で、何を思い浮かべますか。(複数回答可)



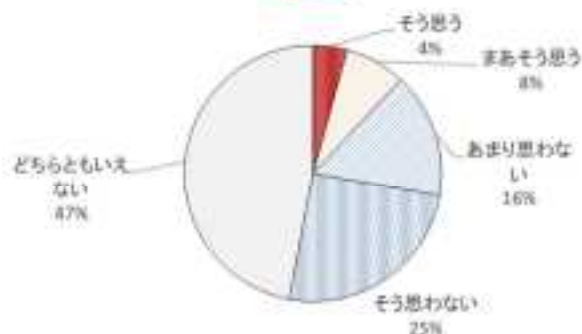
Q10. 「丹波の森づくり」の理念や活動を知っていますか。



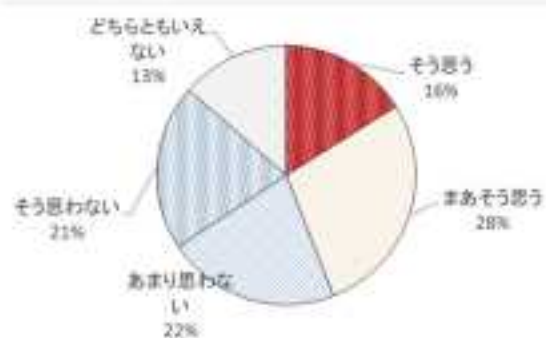
Q11. 国際化、情報化が進み、社会が変化していく中で、丹波地域も変わっていく必要があると思いますか。



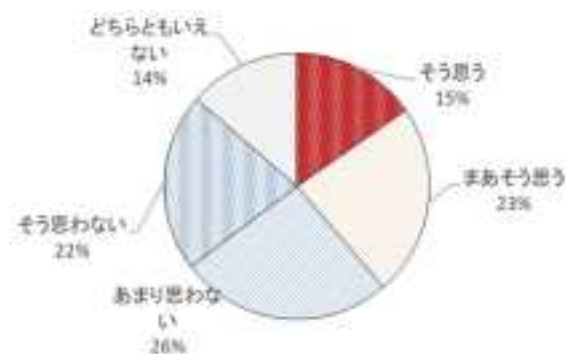
Q12. あなたが、20年前（20歳になっていない人は10年前）に思い描いていた夢は叶いましたか



Q13. 2050年、あなたの家に人型ロボットはありますか。

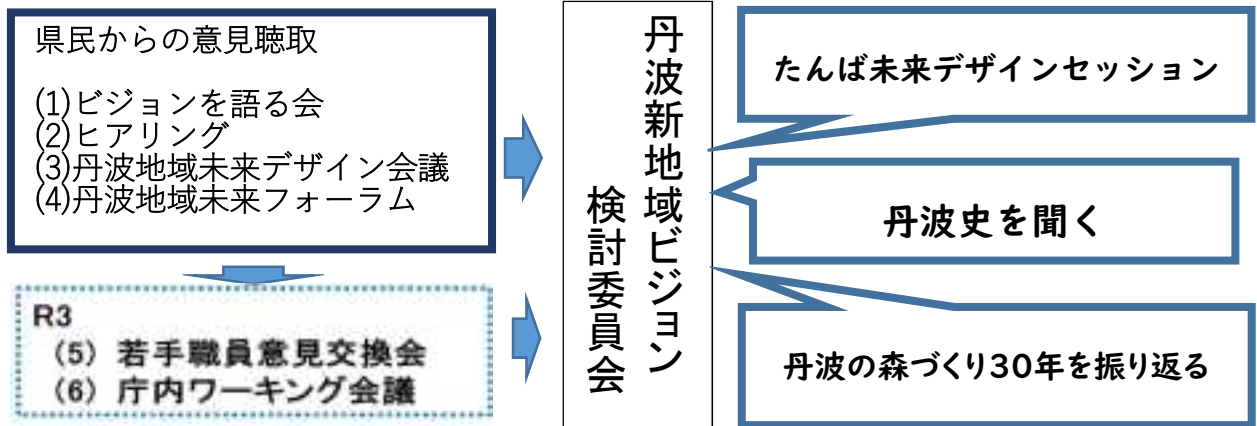


Q14. 2050年、空飛ぶクルマなどで、行きたいところに自由に行けるようになってきていると思いますか。



新地域ビジョン策定にかかる検討の状況

令和2年から3年にかけて、さまざまな方法で地域の方々のご意見を聞き、庁内の施策と照らし合わせながら、検討委員会が検討を重ねて丹波新地域ビジョンを策定した



1 ビジョンを語る会

別様でまとめた

2 ヒアリング

地域のキーパーソン、先進的な活動をしている事業者、地域団体等へヒアリング調査を行った



日程	対象者
2020.10.9	NPO法人 情報社会生活研究所
2020.10.14	NPO 法人 結
2020.10.14	丹波篠山市商工会
2020.10.16	丹波市商工会
2020.10.16	丹波青少年本部、こころ豊かな美しい丹波推進会議
2020.10.26	丹波篠山市社会福祉協議会
2020.10.28	丹波篠山市観光協会
2020.11.11	丹波篠山市老人クラブ連合会、丹波篠山市婦人共励会、丹波篠山市手をつなぐ育成会、丹波篠山市身体障害者福祉協議会
2020.11.12	丹波市観光協会
2020.11.17	丹波篠山市愛育会
2020.11.18	丹波市社会福祉協議会
2020.11.24	丹波篠山市国際理解センター
2020.11.24	丹波ひかみ森林組合
2020.11.25	丹波市国際交流協会
2020.11.25	丹波市森林組合
2020.12.13	丹波市立 農の学校
2020.12.22	丹波ひかみ農業協同組合
2021.4.2	一般社団法人 神楽自治振興会
2021.4.6	丹波立杭陶磁器協同組合
2021.4.20	株式会社大地農園

3 丹波地域未来デザイン会議

(一社)BEET に委託

丹波地域にゆかりのある（在住、在勤、在活）20歳～40歳の若者55名が5回にわたり討議を重ねて地域のデザインを描くワークショップを開催し、アイデア集「未来のアイデア1000」を作成した



(主なアイデアワード)

1 人口減少 2 新しい教育 3 これからの情報社会 4 未来の交通システム 5 丹波は自然がある 6 スローライフができる 7 農業ができる 8 今後も続く丹波の観光 9 歴史文化残る 10 雇用が守られる 11 移住を勧める空き家対策 12 思いをつなぐ高齢化社会 13 次につなぐコミュニケーション地域 14 地域のつながり支援 15 災害のない地域

4 丹波地域未来フォーラム

(R2)

「未来のアイデア1000」を元に14のテーマの中からグループで最も気になるテーマを選択し、ワークショップ参加者による30年後の未来を話しあった



日時 令和3年3月14日（日）13:30～16:00

場所 丹波ゆめタウン ホップアップホール

選択テーマ	結果
テーマなし	他地域に住んだことのある者の視点から、丹波の魅力は、スローライフができる。食。自然のよさ。人との交わり。こういった良さをアピールして2地域居住の拠点となって欲しい
コミュニケーション	病気と犯罪がない社会となり、多世代が交流できる施設が充実する。また、固定したところに永住しないフリーアドレスの社会になる
空き家	シェアハウスとしての活用や短期間滞在ができる施設に。イベント型の活用(空き家の改修体験)
農業	30年後も土に触れあえる農業があることは大事
空き家	マッチングアプリで同じ価値観を持つ人が集まるシェアハウスとして活用
農業	全自動化すれば今の課題は全てクリアする
空き家	空き家が自動保全されるシステムができ、シェアハウスとして活用されている。DIYが楽しめるリノベーションパッケージがある
テーマなし	集中から分散へ(県ビジョン課提案構想試案より) 世界から選んでもらえる丹波地域へ
雇用	30年後は働かなくてもお金をどうにかして生み出せるような選択肢やシステムがあり、生活できているとよい
空き家	他人の話が聞けて、多様性を受け入れるようになり、2世帯同居が進むと空き家は減る。家庭がオアシスになる関係ができる

(R3)

丹波地域で活躍される方10名に地域の将来を語り合っていたいただいた

日時：令和3年11月24日（水）19:00～20:00

場所：共創型コミュニティ施設「mocca」



5 行政との連携

○ 若手職員意見交換会

令和3年6月18日、入庁3年目～6年目の丹波県民局内の若手職員、一般事務職はじめ、環境科学職、獣医師、林学職や農学職、建築職 など多様な業種(11名)の意見を聞く意見交換会を実施した



30年後の望ましい丹波地域に向かって一番大事なキーワード
楽農 発想力 想像力 人 風景 日本に丹波あり つなげる MORITEC
つながり スマート 自由 コミュニティ 一人多役

○ 庁内ワーキング会議

丹波県民局の所長補佐、班長級による庁内ワーキング会議を開催し、施策との関連を協議した

<ワーキング会議>

現状の施策との新地域ビジョンとの比較、未来ストーリーの作成検討(6/23)

<ワークショップ>

メンバーを施策に対応したグループに分け、将来像別（空間像・社会経済像・人間像）のワークショップ開催（8/3、8/11）

<ヒアリング>

新地域ビジョンに対応した関係課庁内ヒアリング（9/2、9/7）

<勉強会>

- ・「六次産業化に向けて」

講師：光井 将一先生

（兵庫県第6次産業化プランナー）

日時：令和3年11月1日 13:00～15:00

参加者数：20名

- ・「次世代集落」

講師：平櫛 武先生(兵庫県地域再生アドバイザー)

日時：令和3年11月2日 15:00～17:00

参加者数：11名

- ・「丹波型アグリツーリズム」

講師：高根沢 均先生（関西国際大学国際コミュニケーション学部観光学科准教授）

日時：令和3年11月8日 14:30～16:30



6 丹波新地域ビジョン検討委員会

新地域ビジョンを策定するため、丹波地域で活動するキーパーソンなどが検討委員として、地域の30年後の未来を描いた

<委員名簿>

(順不同／敬称略)

氏名	所属・役職
安達 鷹矢	株式会社 Local PR Plan 代表取締役
足立 雄一郎	丹波市商工会青年部長
角野 幸博	丹波の森公苑長、関西学院大学建築学部長・教授
構井 友洋	丹波篠山市担い手農業者協議会会長・丹波篠山市商工会青年部 部長・株式会社丹波篠山かまい農場代表取締役
上甫木 昭春	大阪府立大学名誉教授(生命環境科学研究科緑地環境科学専攻)
岸 孝明	第10期丹波地域ビジョン委員会委員長
清水 夏樹	神戸大学大学院農学研究科特命准教授(丹波篠山フィールドステーション)
清水 徳幸	丹波市次長兼総合政策課長
鈴木 克哉	NPO法人里地里山問題研究所代表理事
瀧山 玲子	第10期丹波地域ビジョン委員会副委員長
竹見 聖司(R2) 藤田 尚位(R3)	丹波篠山市創造都市課長
谷水 ゆかり	NPO法人Tプラス・ファミリーサポート理事長・谷水加工板工業株式会社代表取締役
土性 里花	一般社団法人ウイズささやま総務課長・丹波篠山市社会福祉協議会副会長
中川 ミミ	一般社団法人Be代表理事
宮垣 良一	丹波大空の会元代表

<専門アドバイザー>R3.9~

光井 将一	兵庫県第6次産業化プランナー、奈良先端科学技術大学院大学特任教授
平櫛 武	兵庫県地域再生アドバイザー、キタイ設計(株)事業開発本部

- 第1回検討委員会 (令和2年7月28日)
内容：委員長の選任、検討の進め方、データ資料の提供
- 第2回検討委員会 (令和2年12月3日)
内容：将来構想試案骨子案の説明、丹波地域意見徴収の記録の報告、更新データの提供
- 分科会の開催
交流・元気分科会 (令和3年3月8日)
絆・安全安心分科会 (令和3年3月16日)
自立・次代分科会 (令和3年3月19日)
- 第3回検討委員会 (令和3年7月5日)
内容：分科会の開催結果共有
現行ビジョンの確認
新地域ビジョンの構成案について

- 第4回検討委員会（令和3年9月3日）
内容：丹波新地域ビジョン骨子案の決定
- 第5回検討委員会（令和3年12月20日）
内容：丹波新地域ビジョン素案の決定
- 第6回検討委員会（令和4年2月17日）
内容：丹波新地域ビジョンの最終案の決定・パブコメの実施状況報告

7 たんば未来デザインセッション

丹波検討委員会委員長角野幸博教授とゲストスピーカーによる30年後の未来を描くオンライン対談を開催

- 開催日時 令和3年7月26日（水）13:00～15:00
- テーマ 「2050年の地域像ー空間像、社会像、人間像」
「2050年の暮らし方、住まい方、働き方」
- 出演者 角野幸博（関西学院大学建築学部長・教授）
木多道宏（大阪大学大学院工学研究科教授）
水方秀也（(株)竹中工務店開発計画本部長(西日本)）
光井将一（奈良先端科学技術大学院大学特任教授）
岡絵里子（関西大学環境都市工学部建築学科教授）
- 当日参加者：36名



8 丹波史を聞く

新地域ビジョン策定に向け、丹波地域の歴史を学ぶ勉強会を開催

- 開催日時 令和3年8月31日（火）14:00～16:00
- 開催場所 たんば黎明館多目的ルーム
- 講師 松下正和（神戸大学地域連携推進室 特命准教授）
- テーマ 「丹波の風土・文化の固有性」
「丹波村落の伝統・風習（含コミュニティ・ルール）」
「丹波人気質について」など



9 丹波の森づくり30年を振り返る

別様でまとめた

ビジョンを語る会

地域の方と兵庫県の幹部が車座になって、地域の課題や30年後の未来を語り合う「丹波地域ビジョンを語る会」を令和2年から令和3年にかけて8回開催した

1 シリ丹バレー キックオフミーティング参加者

- 開催日時 令和2年9月27日(日) 15:45~17:00
- 開催場所 丹波篠山市立四季の森生涯学習センター 研修室大
- 参加人数 11名
- 話 題 移住者や関係人口からみた丹波地域のこれから



2 丹波 JC

- 開催日時 令和2年10月22日(木) 19:00~20:30
- 開催場所 兵庫県柏原総合庁舎職員福利センター会議室
- 参加人数 16名
- 話 題 丹波市の若者経営者からみた丹波



3 丹波地域農業経営士・女性農業士・青年農業士

- 開催日時 令和2年11月2日(月) 16:00~17:40
- 開催場所 兵庫県柏原総合庁舎職員福利センター会議室
- 参加人数 16名
- 話 題 丹波の農業



4 丹波篠山 JC

- 開催日時 令和2年11月2日(月) 19:00~20:10
- 開催場所 丹南商工会館 2階大研修室
- 参加人数 11名
- 話 題 丹波篠山市に住む青年が感じること



5 丹波地域で子育て中の方

- 開催日時 令和2年11月23日（月・祝）10:00～11:20
- 開催場所 おとわの森子育てママフィールド「プティ・プリ」
- 参加人数 13名
- 話 題 丹波地域での子育ての現状と課題



6 丹波の森大学受講生

- 開催日時 令和2年12月19日（土）11:40～13:00
- 開催場所 丹波の森公苑 2階セミナー室
- 参加人数 14名
- 話 題 丹波の森で暮らす人の歴史と災害対応



7 丹波篠山市地域おこし協力隊

- 開催日時 令和3年6月24日（木）11:00～12:20
- 開催場所 丹波篠山フィールドステーション 2階セミナー室
- 参加人数 10名
- 話 題 丹波ファンから森の市民へ



8 初期ビジョン策定メンバー

- 開催日時 令和3年8月4日（水）14:00～16:00
- 開催場所 丹波の森公苑 会議室3
- 参加人数 4名
- 話 題 みんなで丹波の森策定から20年を振り返って



丹波の森づくり30年を振り返る

丹波の森づくり構想から30年。丹波の森公苑の歴代公苑長とともに、その歴史や取組を振り返る

対談者：2代目丹波の森公苑長（人と自然の博物館館長） 中瀬 勲
3代目丹波の森公苑長（関西学院大学建築学部長） 角野 幸博
コーディネーター：関西大学環境都市工学部建築学科教授 岡 絵理子

1 はじめに

一丹波への想い、丹波から連想するイメージとは？

丹波の丹はあかいと言う字。あかい稲穂が風に吹かれてうねっているのが丹波の語源。私も、豊かでゆったりとしたふるさと感があるところだと思う。（中瀬）

篠山盆地は「荘厳駐中」。丹波の山は、盆地の景観、盆地と盆地を囲む山々があるのが特徴的。（角野）



2 森づくりの原点を探る(河合先生を偲ぶ:理念編) <1996.4~2005.7>

一河合雅雄先生とはどのような方

丹波は河合先生の生まれ育ったふるさと。そこで自然を体感する経験を子どもたちにさせた。ネットワークの良い方で、いろいろな人を巻き込んで様々なことをされた（中瀬）
京大の猿学の研究者。サルが海水で芋を洗うことを発見された（角野）

一河合先生のご功績

丹波全体の森や、サイクリングもできる大きな歩道、丹波路のハイキングロードを提案された。「丹波の森大学」や「森の国際大学」も開催された

一国際交流の推進

森林文化国際会議(1993年)：丹波の森とウィーンの森（オーストリア）、黒い森（ドイツ）、フォンテーヌブローの森（フランス）の4地域の森づくり関係者による意見交換会をユニットピアささやまで共通語がドイツ語とフランス語という当時としては珍しい国際性の高いものを開催した

一丹波の森大学について

1991年10月19日の河合雅雄先生の「丹波地域の自然と文化」の講演をスタートに、当初は森づくり、地域づくり。コミュニティづくり。地域づくりのハード、ソフトに関わる人々を中心に行っていた（中瀬）

森大学は生涯学習でなく内容は大学の講義レベルのことをする。単に教養を高めるだけでなく学んだことを地域で実践し、地域に返してもらおう。そういう活動する人を育てたいと河合先生は言われていた（角野）

一丹波の森構想

河合先生が丹波十町全体を「丹波の森」と名付けられ、丹波の森公苑の開苑に際して、多くの人にとって、森づくりとは鎮守の森のような小さな森づくりを連想するが、丹波の森や川を活かした緑に埋もれた「まちづくり」を目指すと言われ、平成元年に「丹波の森構想」が策定された

3 森づくりの展開(中瀬公苑長のご功績:空間・活動編) <2005.8~2017.3>

一丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」の策定

2001年地域の人と丹波新地域ビジョンを策定した。市民が書いて、市民が編集して作ったのは、丹波だけ。河合先生が行政と市民の敷居をなくして、みんなが一緒になって作った。

一地域づくりは人づくり

人が育ってこそその地域。その人たちが委員としてだけでなく、そこで作られたネットワークを地域の活動につなげていった。

一市民主体の地域文化の発信

創作市民オペラ「おさん茂兵衛 丹波歌暦」は、ビジョン委員の一人が尼崎や敦賀まで交渉に行って、仲間と一緒に作り上げた。

一「シューベルティアーデたんば」(1995.11~)の意義:新

たな挑戦の積み重ね

丹波地域全体を舞台にした住民主体の取組、27回を数える歴史がある。地元の人たちがどこにでも通用するようにつくりあげ、最初と最後だけが大きな会場でそのほかは小学校、お寺、幼稚園、たんば。あれも市民の発案

一ウィーンとのつながり

きっかけは、半田真理子さんという女性の造園家が知事対談の際に「ウィーンの森」のことをほめ、当時の知事が丹波の森はウィーンの森と似ていると言った。そこで市民が盛り上がり、姉妹提携しようという話になった。1989年に初めてウィーンを訪問し、4年後の1993年11月に調印が行われた。それから、毎年40人くらいが訪問している

一森の文化の醸成

ウィーン訪問をきっかけに文化度が上がった。シューベルティアーデたんばのフェイナルへ参加する住民の服装は正装。いつもと時間と空気が流れる場所でいつもと違う服を着て、いつもとは違う異空間を作るのはまちづくりにも重要

一里山文化の保存と再生,生物多様性の確立・充実について

丹波地域の植生を作ったのは兵庫県で一番早かった。丹波ランドスケーププランニングや丹波ゲートオブ地図も全県に先駆けて作った。緑条例も丹波が初。ここをベースにして森をつくる人、サンショウウオ、ホトケドジョウなど個別のチームを作った。全丹波地域で動いたと同時に個別のテーマを持って動いた

一丹波の森研究所の役割

丹波の森研究所の役割は大きい。地域に軸足をおいていろんな視点から地域のことを研究して実践、政策につないでいく。丹波のことを外のコンサルに任せっきりににはできない。ここに軸足をおいて、調査研究をしている人たちが地元の市民であり、担い手である森研究所があるのは、自慢になる

一丹波の森大学専科コースの成果

森大の専科コースでは、毎年テーマを定めて森づくりや地域づくりをやっている。灰屋の研究では、1年目は丹波地域の灰屋の地図を作った。翌年には灰屋を作った。お金もないので全部自腹で作った。1年間かけて作る時、丹波の人の力を感じた。土固めて乾燥させてを繰り返して、間に瓦を挟んで。土は山の土。全部自分たちで作った。そんな灰屋が残る丹波篠山が日本農業遺産に認定された。



4 森づくりのこれから(角野公苑長がめざす将来:未来・価値創造編) <2017.4~現在>

一 引く継ぐべきコトと新に取り組まないといけないコト

もともと丹波の森は木が生えている部分だけでなく丹波地域全体をさす。そのことを見直していくことで、丹波の森の自然、木が生えている部分、農業をやっている部分、人が暮らしている部分をどうやって輝かせていくか。担い手が少ない中でどうやって輝かせるかが大きな課題。今、地域でがんばっている人を助ける地域外の人をどうやって今まで以上に呼び込むか。そこで暮らしたり、働いていただけるか。1ターン1ターンを考えている人たちに丹波の魅力を伝えていく必要がある



一 森とデジタル技術の融合

ソサエティ5.0といったIT技術は田舎でこそ、こういった地域でこそ活用できる部分が多くあるのでは。そこで、また小屋を作ろうかと思っている。ツリーハウスのようなもので、その中では、テレワークの拠点になっていたり、働く場所になっている。自然の中で活動できるような、新しい小屋ができないか。丹波地域での新しい暮らし方、働き方を提示していく。自然の中でそれなりに便利だというようなまちづくりをしていく。それも丹波の森の姿になるのでは。もちろん森公苑だけでできることではないので、県や市と協力しながらやっていくことになる

一 食を通じた地域づくり

外部にネットワークをつくるためのひとつの切り口として食べ物。丹波特産品を使っておいしい料理を作っていく。単に作られた物を食事するだけでなく、農業の6次産業化につなげていく。6次産業化の先々に都会の人もいれば、地域の人もいれば、農業の人もいれば、観光の人もいるというネットワークづくりはどうかと思っている

一 丹波縄文の森塾の進展

河合先生が縄文の森塾を始められたが、丹波地域に縄文時代の遺跡がある訳ではない。縄文時代は1万2千年続いて非常に安定した時代だった。集落があって、三内丸山遺跡でも分かるようにしっかりとした建築技術もあった。そして、それを取り巻く森があった。その森に栗とか木の実があった。それを採取して食べた。そして、時々大きな獣をとる。自然とのくらしをしっかりともう一度見直す。食べ物を採取するだけでなく文化やものづくりや技術が1万年もの間に蓄積されている。そういう考え方を丹波で見直すことができないか。その時に、自然、天候、気候とかいったものに敏感になって、丹波の固有性でいうと霧。気象についての感心がものすごく高まっているので、もう一度発見して、魅力付けにできるように。丹波の気象、自然の魅力とそこでのくらしについてもっといろいろな新しい提案ができるのではないかと。

一 丹波の森公苑のムーブメント

縄文の森塾のアドバンスドコースは中学生とか高校生向けにしたいと思っている。小学生ぐらいで縄文の森塾を経験した子どもたちが、中学校を卒業して、一旦きれてしまうので、もうひとつおもしろいことがあるとして提案していく。そこで、結構おもしろいと感じた人たちがチューターとしての循環を考えている。

5. おわりにー森づくりの挑戦ー[10分]

～30年後の丹波にむけてのメッセージ～

丹波は、地場の農産物がすばらしい。丹波篠山の黒大豆、丹波の大納言小豆。おいしい食べ物が多い。松茸は少なくなったが、復元すればよい。松茸があって、黒大豆、小豆があって、猪がいて。それをもう一度どう今風に再現するか。それを再現するのに丹波の人の知恵と交流に来る都会の人をうまく招き入れるか。そして、新たな知恵をどう構築していくか。今まで応援団といていた人を本当に親身になって応援してくれる人にどうゲットしていくか。人口が減っても、ソサエティ5.0などのツールを活用して、うまく地域活性化をやってもらいたい。その時には、その背景にある自然と気象と環境を有効に活かしてもらいたい（中瀬）

突然 30 年後がくるわけではない。30 年後につきあい続けてくれている人は結構いる。30 年後につきあい続けてくれている人をどうやってみつけていくか。ということと、突然 30 年後にがらっと違う世界が変わるわけではないので、段階的にみていく必要がある。これは 5 年で動かすぞとかこれは 10 年かかるぞというような時間の戦略を立てていく必要がある。その中で人口が減るとか地球が温暖化するということの対策も考えるがそれは流れとしては、急に変えることはできない。危機意識をあおるというよりもその中で最適解は何か。その状況下での新しい生活モデルとは何か。自然との付き合い方は何かということとは毎日考えておく必要がある。そのあたりの考える力を森研究所に持たせていきたい。（角野）

< 県民局としての意見 >

30 年の歴史の厚みと取組の精神性に改めて感銘を受けた。丹波の森構想も地域の方に本当に理解していただくと、誇りに思っていただけだと思う。ところが、過去から取り組んでいただいている方には分かってもらっているが、次代の担い手にはまだ、充分理解してもらえていない。実は我々はアンケートをしたが、丹波の森づくりを知っている 10 代は 7% しかいない。93% の人に伝えなければならない。ということで、地域づくりの伝統を次代に伝えていくべく県民局としていろんな取組をしていく。現在、新地域ビジョン策定作業を角野先生に検討委員長になってもらい進めている。この中で丹波の森づくりの伝統をどのように継承していくかを改めて議論していく。ただ、人口減少社会ということで大きく環境が変わっていく。伝統の継承は守っていただけではできない。伝統と革新と言うが、新しいことにチャレンジしないといけない。新しい技術を活かしていく、あるいは、外の方、関係人口を取り込む新しい仕組みを作っていくかなければならない。新しいことにチャレンジして、伝統を守って、新しい価値を作っていく。そのことを実現にしたい。新しいビジョンを地域の人を交えて作っていく。この 30 年を未来の 30 年につなげていきたい。引き続き、みなさんご協力のほどよろしくお願いします



丹波地域ビジョン委員のこれまでの活動

地域住民の参画と協働により、丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」が掲げる将来像の実現をめざして、様々な活動に取り組んできました。

平成13年の設立以来、20年間で893名の方々に活動いただきました。

第1期(H13・14年度／109名)

自然環境の保全、コミュニティづくり、地域の活性化等の11のプロジェクトに取り組んだ。

○丹波の地域づくりなどを進めるNPO法人「たんばぐみ」の設立

丹波地域での地域活動を大きく前進させることになった。

- ・たんば塾 M-1 グランプリ、まちづくりフォーラム
- ・たんば座 オペラ おさん茂兵衛の上演



○丹波ブランドを全国に発信する組織「丹波食文化発信機構」の提案

関係者により設立され、丹波ブランドの全国発信や、農業を通じた交流イベントなどが実施されている。(事務局：たんばぐみ)

第2期(H15・16年度／111名)

都会に近い田舎の活用、高齢者を支え合う仕組み、食文化の発掘など12のプロジェクトで実践活動に取り組んだ。

○丹波に眠る資源の掘り起こしとその普及

大阪の飲食店で「丹波布」(現丹波市青垣町佐治で明治末期まで農家によって盛んに織られていた木綿織物)がコースターに用いられ、「氷上つたの会」が製造したよもぎ餅が店内で販売されるといった成果があった。

○小中学生を巻き込んだ「ヒメボタルなどの自然環境調査」の実施

丹波市山南町で「第1回ヒメボタルまつり」が開催され、都市との交流、環境保護意識の向上などの成果に繋がっている。

第3期(H17・18年度／142名)

シンボルプロジェクト「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」や、地域づくりニューリーダー塾の開塾など10のプロジェクトに取り組んだ。

○シンボルプロジェクト「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」の進展

イベントなどで「田舎暮らし案内所」を設置し、丹波での田舎暮らしの相談や田舎暮らし情報の希望者を登録し、田舎暮らし体験イベントに招待して交流を深めた。

丹波へのリピーターを増やすため、都会から1ターン・Uターンした住民の有志が、

大阪や阪神間で丹波での田舎暮らしの経験談を語る「たんば・田舎暮らしフォーラム」を開催した。

また、ビジョン委員会の活動の中から、不動産情報にも対応するため「NPO法人ほっと丹波」が設立された。(2012年3月解散)



第4期(H19-20年度/102名)

シンボルプロジェクト「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」の一層の推進など11のプロジェクトに取り組んだ。

○シンボルプロジェクト「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」の推進

「たんば・田舎暮らしフォーラム」等のイベントで「田舎暮らし案内所」を設置し、「NPO法人ほっと丹波」と連携しながら、田舎暮らしの相談、丹波地域のPRや情報提供を行った。

また、田舎暮らし体験イベントを企画。「田舎暮らし情報提供希望者」を招待して交流を深めるなど丹波地域へのリピーター確保と定住促進に取り組んだ。

○丹波篠山トイレマップ（ホームページ）の作成

障害者が気軽に外出できるよう「いつでも、誰でも使えるトイレを増やしていく」ため、丹波地域全域のトイレ調査（約200箇所）を実施し、トイレマップとしてまとめてホームページに掲載



第5期(H21~23年度/101名)

ビジョン改訂版の策定のほか、シンボルプロジェクト「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」の一層の推進など11のプロジェクトに取り組んだ。

○シンボルプロジェクト「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」の推進

都市住民を丹波地域に招き、里山・田舎暮らし・歴史散策ツアー等を開催し、都市住民と丹波地域の住民との交流を進めたほか、都市から丹波地域への移住者と丹波地域の住民との交流会を開催し、相互理解を深めた。

○有機農業実践体験「丹波の里塾」の実施（8期まで継続）

有機野菜の栽培体験を通して、食の安全や丹波地域の農産物への関心を高めるため、「丹波の里塾」（平成21年度～22年度：計6回、平成23年度：特別塾を含め計8回）を実施し、都市部をはじめとする参加者が有機農業の栽培等に取り組んだ。



第6期(H24・25 年度／77 名)

シンボルプロジェクト「たんばを楽しむ連携・交流プロジェクト」を中心に8つの実践活動グループが、5つの将来像実現に向け様々な活動に取り組んだ。

○シンボルプロジェクト「たんばを楽しむ連携・交流プロジェクト」の推進

田舎暮らし体験施設の開設、運営を支援し、施設を活用したUターン者と地域住民の交流会を開催。Uターン者、Iターン者、地域住民がともに丹波のまちづくりを考えるフォーラムを開催し、まちづくりの課題などを共有するとともに相互理解を深めた。

○高齢者を対象とした「いきいき健康ひろばモデル事業」の実施

インターバル速歩を体験する「いきいき健康ひろばモデル事業」を篠山市と協働で開催し、誰もが気軽に取り組めるウォーキングからの健康づくりに取り組んだ。

第7期(H26・27 年度／90 名)

シンボルプロジェクト「たんばを楽しむ連携・交流プロジェクト」を中心に8つの実践活動グループが、5つの将来像実現に向けた活動に取り組んだ。

○地域資源を活用した商品づくりと販売によるコミュニティビジネスの立ち上げ

丹波地域に当たり前に存在し、価値あるものと認識されていない素材を掘り起こし商品化に取り組んだ。多くの家庭に自生する「ゆず」から製造した「ゆずこしょう」は、東京での販売や活動終了後も継続販売への道筋をつけるなど、結果を残した。

○高校生を対象としたキャリア形成を支援する「夢授業」の実施（8期まで継続）

地域の大人たちが自らの体験を学校で語り、授業では学べない多様な生き方を伝えることで、高校生が社会に出る際の選択肢を増やすなど、キャリア形成の一助となる機会を提供した。

第8期では「夢授業」の実施校を3校にまで拡大し、任期終了後は、一般社団法人「BEET」を設立してさらなる展開を図った。



第8期(H28・29 年度／77 名)

ビジョン改訂版に掲げた5つの将来像の実現に向けて、8つの実践活動グループが活動に取り組んだ。

○地域に埋もれた食材を活用した新たなビジネスの創出

有害獣として駆除数が増加している「鹿」の活用を図るため、お土産用として鹿肉を食べたことがない人でも気軽に食べられることをコンセプトに、保存性／運搬性の高いジャーキーの新商品を開発。

鹿肉料理専門店「無鹿」や「丹波いっぷく茶屋」（北近畿豊岡自動車道氷上 PA）、丹波市立薬草薬樹公園「丹波の湯」など販路開拓を進め、黒字化に成功し、2年目は補助金を返上。任期終了後も、有志が組織を立ち上げ鹿肉ジャーキーの販売を継続。

○ビジョン委員と地元のママパパ世代による地域ぐるみでの里山整備活動

「裏山に子どもの遊び場をつくりたい」という女性委員の思いを起点に、ママ世代が中心となって、子ども、パパ、祖父母世代を巻き込み、地域ぐるみの里山整備活動に発展。

集大成としての「森の音楽会」は地域をあげての開催となり、単に荒れた里山が整備されただけでなく、「山づくりを通じた地域づくり」につながった。任期終了後も、「森の音楽会」等の開催を継続



第9期(H30-31 年度/47 名)

5つの将来像の実現に向けて、6つの実践活動グループが活動に取り組んだ。

○「つなぐ」をテーマに、人と人、地域と地域、過去と未来をつなぐ事業を展開

明智光秀ゆかりの地“金山”を舞台に八上城跡、黒井城跡、金山城跡で一斉に「のろし」をあげ、さらに雲海や城郭の姿をドローンで撮影したものをDVDとして地域の魅力を発信した。

○防犯防災、男女共同参画、生きづらさを抱える人たちへの支援と情報提供

誰もがいつまでも生き生きと暮らせるように「ひきこもり・若者相談マップ」の作成やゲームを通じたひきこもり支援などを実施。紙芝居を製作しての啓発活動や「命を守る防災教室」での消火体験や避難所パーティションづくりを実施した。



第10期(R2-3 年度/37 名)

5つの将来像の実現に向けて、5つの実践活動グループが活動に取り組んだ。

○歴史的農業遺産「灰屋」の再建に取り組み地域の課題解決のきっかけに

草刈りでできた大量の刈り草を有効利用するため、焼土肥料を作製。焼土肥料を作るために、焼土肥料の勉強会を開催し、半壊していた灰屋を委員と地域住民で再建した。さらに、灰屋の魅力を広く周知するため「灰屋ウオーク」や「灰屋の残るまち写真展」も開催。



つなごう丹波の森

設定 夏休み、ふるさとである丹波の里山に、小学生の娘をつれてフォレストツーリズムにやってきた

母：お母さんは子どもの頃、神戸のおうちとこのあたり(丹波市青垣町)におうちがあって、夏休みは近くのおじちゃんたちに宿題を教えてもらって、この山にも連れてきてもらったの。

娘：お母さんが子どもの時も、ここの山で遊んだの？

母：お母さんがいた頃は、こんなに誰でも山に入れなかったんだけど、近所のおじちゃんたちに連れてきてもらってたよ。

娘：あっ！あそこの川にお花が咲いてる！

母：バイガモね。一時は絶滅寸前だったけど、地域の人たちが復活させたのよね。

娘：神戸の川にはないの？

母：バイガモはね、とってもきれいなお水の流れる川でしか育たないのよ。

娘：へ～。他にもある？

母：そうね～。丹波にはホトケドジョウやクリンソウ、オオムラサキっていう蝶もいるわ。どれも、豊かな自然環境のおかげね。

娘：豊かな自然環境って、放っておいてもそうなんでしょ？単に田舎だけじゃん。

母：そんなことないよ。放っておけば、山は荒れ放題で、ゲリラ豪雨があったら、木が倒れちゃったり、そしたら、川も汚れて、海も汚れちゃう。この地域の人やロボットが山をきれいにしてくれてるから、私たちもこうやって散策できるのよ。

娘：へ～。山って、勝手にきれいになるんじゃないんだ。あそこにいる機械が木を切ってるのも、山をきれいにするためなんだね。

母：そうよ。あの木はこのあとどうなると思う？

娘：どうなるの？クリスマスツリーとか？

母：そうね。クリスマスツリーの木もあるかもね？でも、多くは、おうちを作るのに使われたり、薪として使われたり、紙の原料になることもあるわね。後は、バイオマス燃料として使われることもあるわ。

娘：木っていろんなことに使われるんだね。山をきれいにしてくれる人たちがありがとう。

母：そうね。パパも時々お仕事の人たちとお森づくりに行ってるのよ。

娘：ふ～ん。あっ！あそこに鹿さんがいる。

母：あら、ほんと。珍しいわね。最近はICT管理が進んで、鹿がでることもなくなってきたって聞いてたけど。私たちもおじゃましないようにそろそろ帰りましょう。

温かくて、懐かしい丹波の景観

設定 会社員 A さんは友人のフォトグラファー B さんと 100 年桜をテーマにした撮影会を開催

A：今日はいいお天気によかったね。自転車もすぐ借りれたし、ラッキーだったね。

B：撮影機材があるからアシスト付きでよかった～。

A：えっ！もしかしてこの先ずーっと桜じゃない？

B：すごいじゃん！何キロあるんだろ？

A：それも 100 年ものだよ。

B：以前は、100 年桜がこんなにあるなんて想像できなかったらしいよ。桜の病気の治療ができるようになったおかげだね。

A：あれっ？なんか、本物じゃないのがある。

B：今、3D プリンターで再生させるところが増えてるらしいよ。コストもかからないし、手入れもしなくていいからね。

A：へ～。でも、この木だけ年中咲いてるってこと？

B：まあ、そうなるね。A、そこで自転車とめてポーズとってよ。

A：はいはい。このあたりはサイクリングロードがきれいで走りやすいね。

B：うん。景色もいいし、さいこー。(パシャ、パシャ 撮影開始)

A：来週は「たんば三街道の日」の日でサイクリングイベントもあるらしいよ。

B：そうなんだ。いろんなことしてるんだね。

A：そうそう、また来ようよ。今度はトレイルランニング大会もやるらしくて、彼が参加するって言うてるから。

B：じゃ～、彼氏の勇姿を撮影しましょうか。

未来へとつなぐ集落資産

設定 東京の本社の移転に伴い家族で神戸市垂水区に転居した。兵庫県の住民となって自然の豊かさに魅了され、もっと自然を味わいたいと丹波篠山市へ遊びにくるようになった。移住したいと思いはあるものの、空き家も少ないらしく、まだしばらくは淡路への通勤や子どもの学校のこともあるので、まずは「第二市民」に住民登録してみた。

息子：今日はおまつりなの？

父：水無月祭っていうらしいよ。播州のおまつりとはまたちがって、京都の祇園祭の山鉾のようなよう山車がでるそうなんだ。

息子：へ～。僕たちも第二市民ってやつになったから、山車に乗れるの？

父：そうだな～？乗せてもらえるかは分からないが、父さんは引き手のサポートをして欲しいと頼まれる。

息子：あ～。先月の自治会、オンラインでやってたやつだね。

父：そう。福住のゲストハウスも用意してくださってるそうだ。

息子：楽しみだな～。枝豆とかも食べられるかな？

父：それは、無理じゃないかな？まだ、収穫祭まで日にちがあるぞ。

息子：先週も行ってたから、枝豆かと思ってたよ。

父：あ～、あれは日役って言って、祭りに向けた草刈りに行ってたんだよ。第二市民ってイベント参加することだけじゃないからな。あれはあれで、地域の人と情報交換ができて楽しいけど、慣れないから、次の日まであちこち筋肉痛で。

息子：父さんももう歳だから。(笑)

父：でも、地域の皆さんが温かくて、待ってくださってるから、ついついがんばってしまうんだな～。

廃村？新しい村に住もう人々

設定 最近開村した子育て村に尼崎から移住してきたCさん。お世話になった移住相談窓口(担当者D)へ引っ越しの報告にやってきた

C：こんにちは。その節は大変お世話になりました。

D：あ～、Cさん。ついにこちらに移住されたんですね。お引っ越しおめでとうございます。子育て村はいかがですか？

C：いや～、事前に「移住にあたっての10箇条」も教えてもらって、子育て村にしてよかったです。当然ですが、ご近所も子育て中の方ばかりなんで、夜泣きをしても気をつかわずに済みますよ。昨日なんて、息子を連れて夜中の散歩をしてたら、公園に何人か同じようなお父さんがおられて、苦労話に花が咲きましたよ。

D：そうですか。どことも夜はお父さんが大活躍ですね。

C：尼崎にいたときは、夜中に大泣きする子どもを連れて散歩なんて論外でしたけど、ここでは気兼ねなくです。それに、夜の公園で、お得な情報をたくさん仕入れましたよ。子育てクーポン提供店のお話を聞いて、早速もらいに来たわけです。

D：あ～、それならうちも扱ってますよ。少し待ってくださいね。え～っと、Cさんのご家庭はお子さんはお二人でしたよね。では、お二人分のデジタルクーポンを。送信完了！丹波の食をお楽しみください。離乳食対応のところもあるので、検索してくださいね。

C：ありがとうございます。マイクロツーリズムで宿泊も考えてるんですが、子どもづれでも大丈夫なとこってありますか。

D：もちろん。別宅型ゲストハウスだと、家主の方も離れたところにおすまいですし、ベビーベッドも用意されてますよ。

C：上の子ども目一杯遊ばせてやりたいんですが。

D：でしたら、アクティブ・フォレスト体験がお勧めかな～？子どもが自由にあそべる森の公園もあるし、森の迷路も人気ですよ。

C：虫取りもできるかな～？

D：ここは100年前の環境が残ってると言われてる地域ですよ。クワガタもカブト虫もいますよ。ただ、ヤブ蚊も多いから虫よけ対策も必要ですよ。

森の活用 アクティブフォレスト

設定 林業家 E さんは、今年 90 歳を迎えた。同じ村に住んでいる移住者で森のワーカー F さんのアクティブフォレスト開発の指導をしている

E：この辺りの森もいい循環が進むようになったな。これも F さんが来てくれたおかげじゃ

F：いやいや、私は E さんのご指導がないと何もできませんよ。

E：わしは、こうやって VR で見て、文句言うとするだけや。

F：いやいや、的確なご指導ありがとうございます。ロボットアームで手取足取り教えていただいていますよ。

E：家において、機械でやるとるだけやで。

F：今はそれでいいんですよ。ほとんどが機械でやってくれますけど、どうしても機械で測れない木の性格のようなものは昔からの感覚が大事になってくるので。

E：そうか～。そういうたら、地籍調査もロボットが全部やってくれる言うてたな。便利な時代やな～。

F：そうですよ。大径木の搬出もそのあとの植林も、鹿とか猪の個体数管理も全部機械まかせです。ぼくらは、バッファゾーンとなった麓で、森林間伐体験や間伐木を使った建物づくり体験、遊具の製作など創造事業しかしてませんよ。

E：雑木はどうしとるんや。

F：僕らが木工に使うには多いので、バイオマス燃料として搬出してもらってますよ。これも搬出口ロボットがしてくれます。

E：昔は山に登るのも一苦労やったけど、それやったら、わしでも登れるかもな～。

F：えっ！ E さん、来てくれはるんですか？うちの事務所にパワーアシストスーツおいてるんで、使ってください。

E：お～、それ着て、山から木運んでみたいわ。

新しい技術を使った技能の継承

設定 農の匠と呼ばれる祖父 68 歳。小学生の孫がはじめての職業参加で、村の神社の観光案内をすることになった

孫：おじいちゃん、神社の森にドローンがひっかかってたよ。

祖父：あ～、そういうたら、今日追肥でドローン飛ばす言うてたわ。担当のオペレーターも焦ってるやろから言うとかわ。

孫：うん。あそこにドローンがおったら、僕の説明することが増えるから早く回収しといて。

祖父：なんや、おまえ神社で何の説明するんや。

孫：僕、職業体験で神社の観光案内すんねん。母さんと応援ポイントもらうねん。

祖父：応援ポイントって、奉仕作業と職業体験一緒にしたらポイント倍増でもらえるねんな。母さんは何すんねや。

孫：神社の裏山で柿の木の剪定するって言ってたで。

祖父：剪定やったら、わしの「匠の眼鏡」持っていき。って言うとき。

孫：あれ借りていいの？母さんだけプロみたいになるんちゃうか（笑）。

祖父：なんぼかあるわ。今はなんでもシェアしたらええねん。データも残ってるし。

孫：じいちゃんがあのアプリ作ったん？

祖父：いや、わしはなんやようわからん装置つけて普通に作業しとっただけや。

孫：じいちゃんが匠ってなんか鼻高いわ〜。

「農」に育まれた丹波のくらし

設定 新規就農オペレーターの移住者 G と丹波の有機農業を進める大型農家 H

G：H さん、新年早々、ごくろうさまです。

H：G さんこそ、今日もお仕事ですか？

G：今は、全て AI で管理されて、発送までしてくれますが、お送りする野菜がうちのだけでは足りなくて、エラーがでてると連絡があったので確認に。

H：だからって、出勤ですか？アバターに任せればいいじゃない？

G：そうなんですけど、ちょっと子どもたちの VR ゲームの世界から離れたくなって。

H：そういえば、うちもやってたけど、さっき裏山に遊びにいったわよ。

G：リアルな捕獲が必要になったのかな？今の時期って、何がとれるんだろ？

H：虫も今は少ないし、キノコもでてないから、ドングリとか鹿の足跡くらいじゃない？

G：リアル体験はやっぱり丹波は有利ですね。うちの子たちも今までできなかった自然体験ができてます。

H：丹波は昔ながらの自然が残って、子育てには最高よね。最近は、通勤もいらなし、農業も機械化で誰でもできるようになったから、うちの親も白菜売ってたわ。

G：今は、収穫したらドローンが配達してくれるから、その日のうちに食卓に並ぶって、フードマイレージ制度で阪神間から注文殺到ですしね。

H：まあ。丹波で消費するのが理想だけど、学校もオンラインが増えて給食も減ったし、近くで消費してもらえてありがたいわ。

「農」がつなぐインバウンド

設定 丹波の高齢農業者 I と丹波野菜の魅力にとりつかれとうとう現地まで来てしまったイギリス人 J

I：J さん、はじめまして。丹波へようこそ。

J：いつもおいしい野菜を届けてくれてありがとう I さん。

I：いや〜。まさか、本当に来るとは思ってなかったよ。

J：I さんが 100 歳のお誕生日を迎えられると聞いて、お祝いを持ってきましたよ。

I：私も 100 歳で畑作業ができると思ってなかったよ。これもパワースーツとそこいらのロボットたちのおかげだよ。

J：私もここへ来るまで、ここまで機械化されてると思ってなかったです。

I：30 年くらい前は、ひとつひとつ手作業だったんだが、近頃はスマート農業が小規模農家へも導入されて、われらは作物のできをみとるだけでいいんじゃ。

J：イギリスでもスマート農業は進んでいますが、気候が違うからこんなにおいしい野菜は

できないです。

I: 丹波はありがたいことに丹波霧も健在で、山林も手入れが進んだからな。うちのにんじんは甘みが違うじゃろ。

J: 私の友達もここのお野菜がおいしいと移住してきました。

I: そういえば、最近、外国人夫妻が隣村のツリーハウス団地に引っ越してきたと聞いたわ。わざわざ、引っ越してこんでも野菜送ったるのに。

J: 私もいつもいただいています、ここに来て、移住したくなる気持ちも分かりました。ここは空気がいい。水もおいしいし、人もいい。

I: そうかな。そう言ってもらえるのはうれしいな。そろそろ家で誕生日会だな。

J: 私までお招きいただき、ありがとうございます

I: いやいや。私の生徒と趣味の仲間ばかりじゃから気にせんと楽しんでくれ。

J: 生徒って、Iさん何の先生ですか。

I: あ～、野菜伝道師言うて、若い子に昔からの農法を教えとるんや。

J: へ～。ここでは、昔からの手法も受け継がれているんですね。

I: ああ、若いやつに農法を教えて、ギターとゲームを教えてもろとる。

J: 趣味で始めたって言うギターね。今日の演奏楽しみにしてますよ。

多様なワークスタイル、丹波の暮らし

設定 近頃丹波で暮らす時間が増えた K と地元の里山で暮らす L

K: あ～よく寝た。でも肩凝ったわ～。もうちょっと楽な自動運転飛行機に乗り換えないと

L: 何言ってんだよ。贅沢な。もう、こっちに住んじやいなよ。

K: そうね～。こっちで暮らす時間がどんどん増えてるもんね～。

L: いいシェアハウスもあるし。

K: どっちかっていうとシェアハウスより、ツリーハウスを建てたいのよね～。

L: ツリーハウスか～。今、ツリーハウスのサテライトオフィスも人気やから…

K: 丹波でデスクワークしてる人、理解できない。

L: そりゃ～人それぞれでしょ～。K だって、空間コーディネーターとかいいながら山で遊んでるだけじゃん。涼しいところでデスクワークしてる方に見れば理解できないんじゃない？

K: そらそうか～。私の仕事もお手当少ないもんね～。最近は、仲間とキャンプ場開発してるんだけど、それよりこの子たちと演奏会してる方がお手当いいのよね～。

L: 君の労働時間はどうなってるんだよ…

K: もちろん、フリーよ。好きなときに好きなだけ好きな仕事をする。当然じゃん！

誰もが活躍できる社会の構築

設定 最近、人工関節をいれた M さんが AI に自分の今後の生活について相談している

M : 人工関節を入れて痛みはなくなったんだけど、これから何を気をつければいいのかしら。

AI :では、過去のデータからお教えします。

M :先人の方がいろいろ残してくださってるから安心だわ。

AI :人工関節の利用者 N さんからの情報です。〜〜〜ということです。

M :そうなのね。今は痛みがないけど、これが合ってるかももう少しお時間がかかるのね。他にもある？

AI :車椅子で生活なさっている O さんからの情報です。〜〜〜ということです。

M :O さんは人工関節も入れられなかったのね。おつらかったでしょうね。

AI :O さんは、随分長く車椅子生活をなさっていますが、こうやってご自分の記録が誰かの役にたてるのがうれしいと言われてます。

M :あなたは O さんとお話ができるの？

AI :O さんはなかなか外にでて活動ができず、介護を受けておられますが、ご自宅で WEB 相談窓口を開設してピアサポーターとしてもご活躍です。

M :私も是非、お話が聞きたいわ。それに私の状況もデータとして残しといてくれる？この歳で誰かの役に立てるなんてうれしいわ。

みんなで作るみんなの居場所

設定 丹波篠山のひきこもり支援センターに通っていたプログラマー P くんが、国政選挙にでる Q さんへ市内の案内をしている

P :ここが丹波篠山市のひきこもり相談をしている施設です。ぼくもこどもの頃お世話になりました。

Q :お手製の屋外遊具が温かみを感じるころですね。

P :ここは、大人も子どもも男の子も女の子も学校へ行ってなくても気軽にお話ができたり、少しだけ働かせもらえたり、気持ちがいそぐなくなったら相談にも乗ってくれるころです。

Q :画像ではわかりにくいんだけど、雨の日はどうするの？

P :そうですね。屋内スペースもあるのでそこでゲームをしたり、本を読んだり、ワークショップをしたりします。

Q :君はそこでゲームが上達したわけだ。

P :そういうわけではないですけど、きっかけではありましたね。

Q :奥の方にご高齢の方がおられるようだけど彼は指導者かな？

P :いえ、あの方は地域の方ですけど、裏山の整備を自らしてくださってます。他にも、いろいろな方が協力しあって運営をされています。車椅子でここに来るのは大変なんですけど、最近は小型の空飛ぶ車もできたので、足の不自由な方もお手伝いに来てますよ。

Q :みなさんの居場所になってるわけだ。

P :そうですね。みんなでつくりあげてる感じです。

Q :他にもそのような施設があるの？

P :地域に何か所かありますが、高齢者施設からサードプレイスになっているところが多いです。

Q :あ〜。今写ってるところもそうなんだね。昔はこういう施設って、2階が男性で3階が女性みたいになってたけど、今は本人の希望になってるんだよね。

P：そうですね。ご自分が主張される性での生活となるので、トラブルも減ったと聞きます。それに、施設の入所者はほとんどの方が自らの経験をデータベース化して様々な相談を受けるアドバイザーとして活躍されてます。

Q：そうか～。それぞれにあった仕事も必要だね。実は私ももともと女性で暮らしてたんだ。だから、私の経験を元にもっと開かれた社会にしたいと思ってるんだ。

P：それに、僕たちのようなひきこもりだった人間も活躍できる社会に。先生よろしく。

特色ある丹波の教育でもりびとを育てる

設定 丹波地域の高校教諭 S が高校生 T に進路指導をしている

T：先生、僕、東京の大学に行きたいねんけど。

S：そうか。東京の大学行って、何したいねん。

T：何ってことはないねんけど、東京で一人暮らしして、東京で働きたいねん。

S：どこの大学に行きたいと思ってねんや？

T：行けるとこやったらどこでもいい。

S：じゃ～、行きたい学部とかなないんか。

T：特にこれってないけど、観光とかかな～。

S：観光やったら、東京より豊岡に専門職大学があるやんか。

T：いやあ、僕の英語力を使って、海外旅行のコーディネートとかできるようになりたいから、東京の大学行って海外留学するねん。

S：T は英語得意やもんな～。こないだも学校の前で外国人に道案内しとったの見たわ。

T：え～、見られとったんや。アメリカ人やってんけど、この辺の栗が食べたいっていうから、そこのレストラン紹介したってん。

S：あ～、あっこな。自分とこで栗園もしてるらしいな。地産地消のスイーツがうまい言うて、海外からもネット注文が多いらしいで。ネットは勝手に訳してくれるからええけど、直接来た外国人の相手が困るって言うてはったわ。

T：先生、お店の人と知り合いなん？

S：そんなでもないけど、おんなじ仮想コミュニティの住人やから。T はなんで、この高校にはいったんや？

T：そら、おいしい食堂があるのと、そのメニューを生徒が決められるからや。

S：地元の農家さんと一緒になって「食」の研究ができるがうちの売りやもんな。せっかく、このノウハウがあるのに T は東京行くんか～。惜しいな～。今は、東京まで行かんでも多くがオンライン授業やし、仕事かてテレワークの方が多いぞ。東京行って、まづい飯食うんか。

T：東京の方が海外に近いし、旅行社も多いやん。

S：海外へはこっちの方がつながりやすいんちゃうか。最近のインバウンドすごいで。それに、今時旅行社使って観光行くような人おらんやろ。空飛ぶ車で海外からも入って来れるねんし。

T：せやな～。ここで暮らしても外国人によく会うし、最近は新たな住民も増えとるみたいやな。

S：先生も引っ越してきた一人やけど、昔は東京にも住んでたわ。空気はまずいし、水もまずいし、飯も格段にこっちの方がうまい。最近は自分で野菜も作ってるから奥さんの作る料理がうまい。

T：なんなん？奥さん自慢？

S：いや～、そんなことないけど、こっちに来てから奥さんがきれいになった気がするわ。やっぱりこの環境がええからやと思うで。ここにおっても、どこへでもオンラインでつながるし、東京となんら変わらへんで。

T：先生やたらと地元推しやな～。友達も残るって言うてたし、もうちょっと考えるわ。

高齢者と国際交流

設定 丹波の森公苑内にツリーハウス団地の CCRC*ができた。そこに住む Uさんと、丹波の森大学で学ぶオーストリア人の Vさん

V：Uさんこちらの生活はいかがですか。

U：おかげさまで仲間がたくさんいて、楽しいわ。その上、こんな若い方とも交流できて、若返っちゃう。

V：僕らはシューベルティアアードで交流があったのが縁でこちらで勉強させていただくことになったのですが、Vさんはどうしてこちらに？

U：もともと丹波の第2市民登録してたのよ。でも、だんだん歳がたって、都会の窮屈でうるさい生活が嫌になったの。そしたら、ツリーハウスの CCRC ができたって聞いてとびついたの。ここの CCRC は丹波医療センターと連携もされてるから年寄りには安心なの。

V：もともとこのツリーハウス団地は何に使われてたんですか？

U：サテライトオフィスだったって聞いたけど、よく知らないわ。

V：なるほど、ここなら EV ポートも近くて便利ですもんね～。

U：そうなのよ。田舎っていいながら、どこに行くにも空飛ぶ車があればすぐなのよ。あー、あんなところにミニ空飛ぶ車が。

V：いやいや。ドローンでしょう。Vさんとこの CCRC にお住まいの方が近くのこども園の子たちに飛ばし方を教えてるんですよ。

U：へ～。ドローンって誰でも飛ばせるのかしら？私も飛ばしてみたいわ。

V：指導されてる方はもともとエンジニアだったとおっしゃってましたよ。免許をお持ちの方の講習を受ければ飛ばしてもいいそうです。

U：なら、私も今度教えてもらおうかしら。今からセミナールームで大学生のワークショップに参加するのよ。

V：もう小学生集まってきましたよ。僕もお手伝いすることになってるので。僕の母国の友人がオンラインで出演するんですよ。

U：まあ、Vさんもだったのね。国際色豊かなワークショップになりそうね。楽しみだわ。

CCRC(ContinuingCareRetirementCommunity):高齢者が健康な段階で入居し、終身で暮らすことができる生活共同体

次世代コミュニティでくらす丹波の人たち

設定 丹波は人口減少が進み廃村地から転居し、丹波スマートコミュニティに暮らす X とスーパーたんばの店主 Y

Y：いらっしゃい！今日は、明石の鯛が入ってるよ

X：こんにちは。なんかなつかしいかけ声で、つい寄っちゃいました。

Y：ありがとうございます。昔はみんな市場で対面でるのが基本でしたもんね。今やそれが、珍しくて結構遠くからもお越しいただいてますよ。

X：フードマイレージの時代、丹波なら魚以外なら地産地消ができますもんね。

Y：そうなんですよ。さすがに海のは丹波で捕れないですから。

X：その他のものは丹波産なんですか。

Y：生鮮食品は丹波の物を優先的に扱ってます。果物なんかの季節もんと乾物なんかは地域外からのものもあって、マイレージ料金がかかるから少しお高くなってます。

X：あれ？薪も売ってる

Y：そうなんですよ。薪ストーブのおうちも増えて、木の駅プロジェクトから薪を回してもらってます

X：そこも地産地消なんですね。

Y：そもそも丹波は燃料もバイオマスが主流になりましたし、地域内循環ってやつですね

X：ここは歩いて買い物もできるし、こうやってお店の人をお話もできる。ロボットとばかり話してても寂しい気がするんですよ。

Y：そうですね。ここには昔ながらのやりとりもありますね。おもしろいことにこないだ神戸の小学校が社会体験とあってここに来てました。無人販売が普通の暮らしをしている子どもたちには新鮮だったようです。

X：子どもたちにもこんな風景や交流があったってことは知っていて欲しいものですね。負の遺産ばかり引き継がせるのはかわいそうだから。

Y：そうですね。子どもたちに明るくあたたかい未来を見せてやりたいものですね。

丹波の森宣言

昭和 63 年 8 月、住民代表による「100 人委員会」を組織し、「丹波の森宣言」が起草され、1000 人大会で満場一致で決議されました。

この丹波の森宣言は、丹波地域全世帯と企業に配布され 21,616 世帯の同意署名を得て採択されました。



(公財) 兵庫丹波の森協会 HP より

丹波の森構想

丹波地域の美しい自然、暮らし、なりわい、人々の交流、生活空間、生活文化など住民を取り巻くすべての環境を「丹波の森」と位置づけ、丹波の森宣言で示された丹波も森づくり（地域づくり）の理念を具体化するため、住民や活動団体、行政等が一体となって、人と自然と文化の調和した地域づくりを推進していくための取組指針として策定されました。

丹波の森宣言を実現する指針として提案されたのが「丹波の森構想」（'89年3月策定）です。



(公財) 兵庫丹波の森協会 HP より

みんなで丹波の森

成長しつづける丹波の夢ビジョン―「森の市民」をめざして―(平成13年2月策定)

21世紀を見通した兵庫県長期総合計画として策定された「兵庫2001年計画」の計画期間が満了するにあたり兵庫の新しい羅針盤として、すべての人や地域が共有できる「夢」として、新しい長期ビジョンを策定した。

ものの豊かさを享受していた成長の時代から、社会の構成員としての責任を果たしていく成熟の時代を迎え、従来のような人口増加や経済成長を前提とする計画が成り立たなくなったため、地域住民が自ら「夢」を描き、自らがその実現に取り組むという県民主役、地域主導、地域資源や社会基盤の活用を重視するビジョンとしてまとめた。

1 取組姿勢(基本理念)

丹波の魅力を創造するためには、丹波のいのち(=自然)、ひと(=人間)、なりわい(=産業)をはぐくむ(「守り」「育て」「活かす」と同時に、3つの「環」が持つ意味を考え、行動することが大事です。

○いのちをはぐくむ・自然の環

「丹波の森」では、動物も植物もあらゆる生き物が、太古の昔から回り続けてきた大きな自然環境の中で、「いのち」の循環という「環」を先祖から受け継ぎ、子孫に引き継いできました。しかし、近年その一部が損なわれ、野生動物との新たな共生のあり方を問い直す必要が生じています。人間も自然界の一員であることを正しく認識し、自然や人への思いやりのこころ持って行動することが求められています。

○ひとをはぐくむ・人間の環

地域内外の人々が手を携え、つながっていくことが、丹波の森づくりの大きな原動力となります。

一人のできることから始め、立場が違うさまざまな人々が一緒に汗をかくことが継続した丹波(ふるさと)づくりにつながります。こうした活動が地域づくりのネットワークを拡げます。

○なりわいをはぐくむ・産業の環

産業については、それぞれの分野で完結するのではなく、農業や林業、商業、工業などの分野を越え、また、地域を越えて生産・加工・流通過程でつながるなど多様な関係を構築することが丹波の産業の活力にとって重要です。

さらに、ネットワークを広げていくためには、ITなどの新しい動きや世界の動きにも目を向けていく必要があります。

2 将来像

丹波の魅力をみんなの共有の財産として守り、育て、活かしていく。

丹波にかかわる「丹波ファン」と一緒に作っていく、一層高めていきたいと願う丹波の魅力将来像とした。

○都会に近い田舎

豊かな自然の中で暮らしていける都会に近い田舎として、丹波地域内外の人々と外国との交流が活発にできる

○多世代が支え合う豊かなコミュニティ

子ども・若者から高齢者まで各世代や男女、障害者、外国人住民などみんなが参加し、支え合い、助け合うところ豊かなコミュニティがある。子どもが豊かな自然や多彩な人々との関わりの中でこころ豊かに育てられている。

○丹波のことは自分たちで決める仕組み

自分たちの地域のことは自分たちで決めて実行できる仕組みがある。みんなの合意で丹波らしいルールをつくることができる。

○幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動

いろいろな職種を選べる、働き方を選べる、仲間を増やして活発な社会活動ができる。丹波の自然の恵みや伝統・文化、魅力を生かし、農林業や商工業のネットワークが広がる産業がはぐくまれる

○無意識のうちにつくられているバリアがない地域

意図せずつくられているバリア（＝物理的・心理的障壁）がなく、心穏やかに安心して暮らせる真のバリアフリー社会

3 策定の経緯

丹波の夢ビジョンは、丹波地域を愛し、幅広く地域づくり活動を展開している自然環境、国際交流、福祉や産業分野などの実践活動家 18 名と学識経験者 3 名を公募と推薦により選ばれた「丹波の森夢 21 委員会」（座長：中瀬勲教授）を設置し、多くの皆さんからいただいた意見・提案をもとに住民自らが主体的に取り組むことを基本に 21 委員会がとりまとめた。

とりまとめにあたっては、夢ビジョンの草案づくりを行う「起草委員会」と住民の意見を幅広く求めるための夢会議を企画・実施する「企画委員会」の 2 つの委員会を設け、行政による夢ビジョン検討プロジェクトチームと協力しながら取り組んだ。



みんなで丹波の森

成長しつづける丹波の夢ビジョン改訂版(平成 23 年 10 月策定)

長期ビジョンの策定から 10 年が経過し、想定した目標年次の中間年を過ぎたことを期に改訂した。

人口減少、少子高齢化の進展といった社会潮流の変化を踏まえながら、地域住民、関係団体の皆さんから寄せられた意見や平成 21 年 3 月にまとめられた丹波の森構想の評価・検証報告をもとに、現行地域ビジョン点検・評価し、30 年後の 2040 年を展望しつつ、2020 年の地域の姿を想定した丹波地域ビジョン改訂版を策定した。

1 取組姿勢(基本理念)

当初ビジョンでは、「森の市民」になることを提唱していますが、丹波の森構想の評価検証報告(平成 21 年 3 月)においても、「もりびとになって たんばらしさを楽しもう」という提言で、「もりびと」(“もり”には、「森」「守」「盛」の意味を込め、丹波の森を守り盛んにすることを目指す)という同様の考え方が提唱されています。

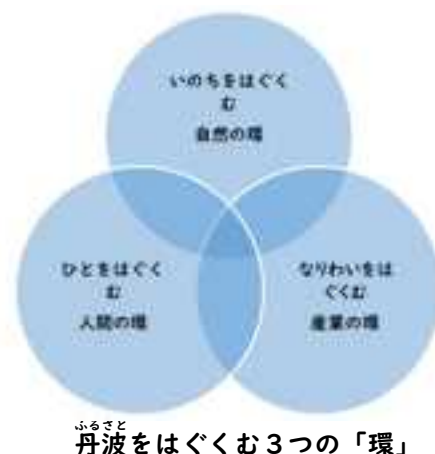
また、当初ビジョンでは、提唱された『3つの環』の取組姿勢を引き継ぎ、基本としながら、丹波地域とはじめてした住民、団体、企業、行政等が連携し、主体的に取組を進めていくことにより、丹波地域ビジョンの掲げる 5 つの将来像の実現を目指します。

○シンボルプロジェクトの展開

丹波地域ビジョン委員会では、平成 18 年度から、住民と行政の参画と協働をより一層推進していくため、地域住民や団体が行政との連携を推進する象徴的なプロジェクトとして、『たんば田舎暮らし支援プロジェクト』をシンボルプロジェクトとして設定し、田舎暮らし案内所の開設、田舎暮らしフォーラムの開催、交流イベントの実施に取り組んだ。

さらに、企業と連携した森・里づくりや大学との連携による商店街の活性化等の地域づくり、歴史的・文化的つながりをもつ京都丹波との「大丹波」連携、農産物の都市部での販売や県民交流広場を活用した都市との交流など、連携・交流の輪が広がっている。

こうした状況を踏まえて、これまで取り組んできた「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」は発展させ、シンボルプロジェクトを『たんばを楽しむ連携・交流プロジェクト』と設定し、住民と行政が協力して取組を進めた。



2 将来像

5つの将来像を実現していくために、丹波地域の住民、団体、企業、行政が地域ビジョンの理念等を共有し、主体的に取り組を進めた。

丹波地域が持つ魅力のある資源を最大限活用し、さらに丹波地域の魅力を創造していくための取組みの方向を、丹波の森夢会議や地域ビジョン検討委員会の議論をもとに5つの将来像を示した。

○みんなで創る“自立のたんば”

- ①地域の魅力発掘と情報発信 ②地域を担う人材の育成
- ③地域づくりへの住民参加の推進 ④地域で活動する団体の連携推進

○都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

- ①森・川・里の豊かな自然の保全と活用 ②環境に優しい地域づくりの推進
- ③環境学習フィールドづくり ④美しい景観づくりの推進
- ⑤都市との多彩な交流の推進 ⑥丹波の田舎暮らし情報の発信

○やりがいを実感できる“元気なたんば”

- ①地域の産業とリードする農林業の振興 ②商店街の活性化・ものづくり産業の振興
- ③丹波の魅力を活かしたツーリズムの推進 ④地域の資源を活かした「しごと」の創出
- ⑤地域づくり活動・文化活動の推進 ⑥若者の就労促進

○多世代が支え合う“絆のたんば”

- ①地域コミュニティの再生 ②地域ぐるみでの子育て推進
- ③高齢者が安心して暮らせる地域づくり ④高齢者が活躍できる地域づくり

○ともに暮らす“安全安心なたんば”

- ①誰もが暮らしやすいユニバーサル社会の実現 ②障害のある人も外国人も共に暮らす地域社会の実現
- ③医療や健康、食の安全が確保された安心な地域の実現
- ④災害に強く、犯罪のない地域づくりの推進

3 策定の経緯

当初の丹波地域ビジョン策定からの時代潮流（解決すべき課題等）の変化等を踏まえながら、ビジョンの点検・見直しを行い、将来像や地域づくりの方向性等について検討する丹波地域ビジョン検討委員会（検証委員長：中瀬勲丹波の森公苑長）を設置し、平成21年から22年にかけて、複数回の検討委員会を開催。

検討委員会は、地域住民（過去のビジョン委員等12名）が中心となり、15名でなる。